



# 漕 魂

24号

2002年

長崎大学医学部潜水部

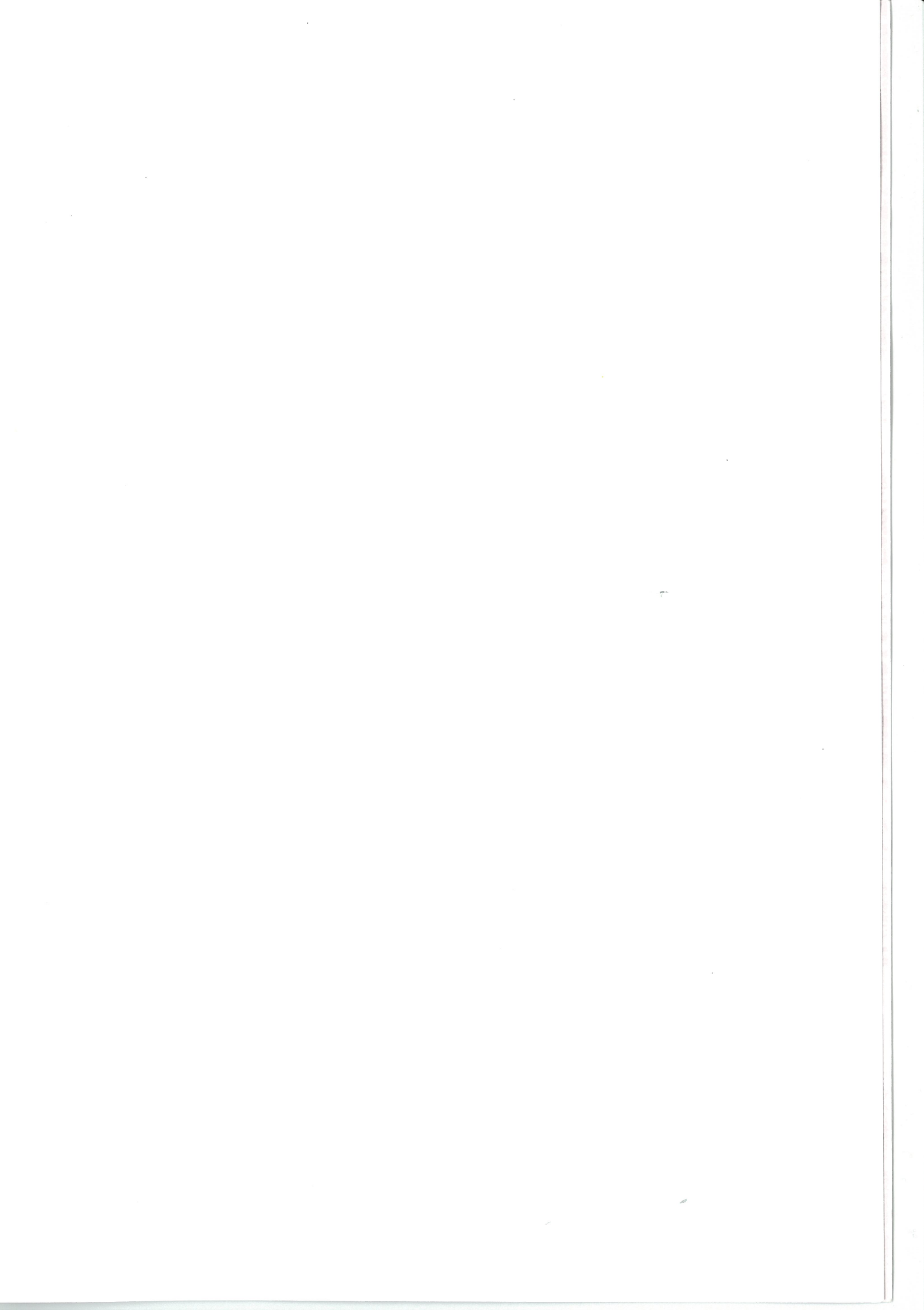


# 漕 魂

24号

2002年

長崎大学医学部漕艇部



## 卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び帰らざる

若き日の感激を謳わん。

## 漕魂の歌

作詞：今井雅之

作曲：岩井怜

一. 街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二. 水を切り 走る崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つの は 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三. スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げる コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

## 琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

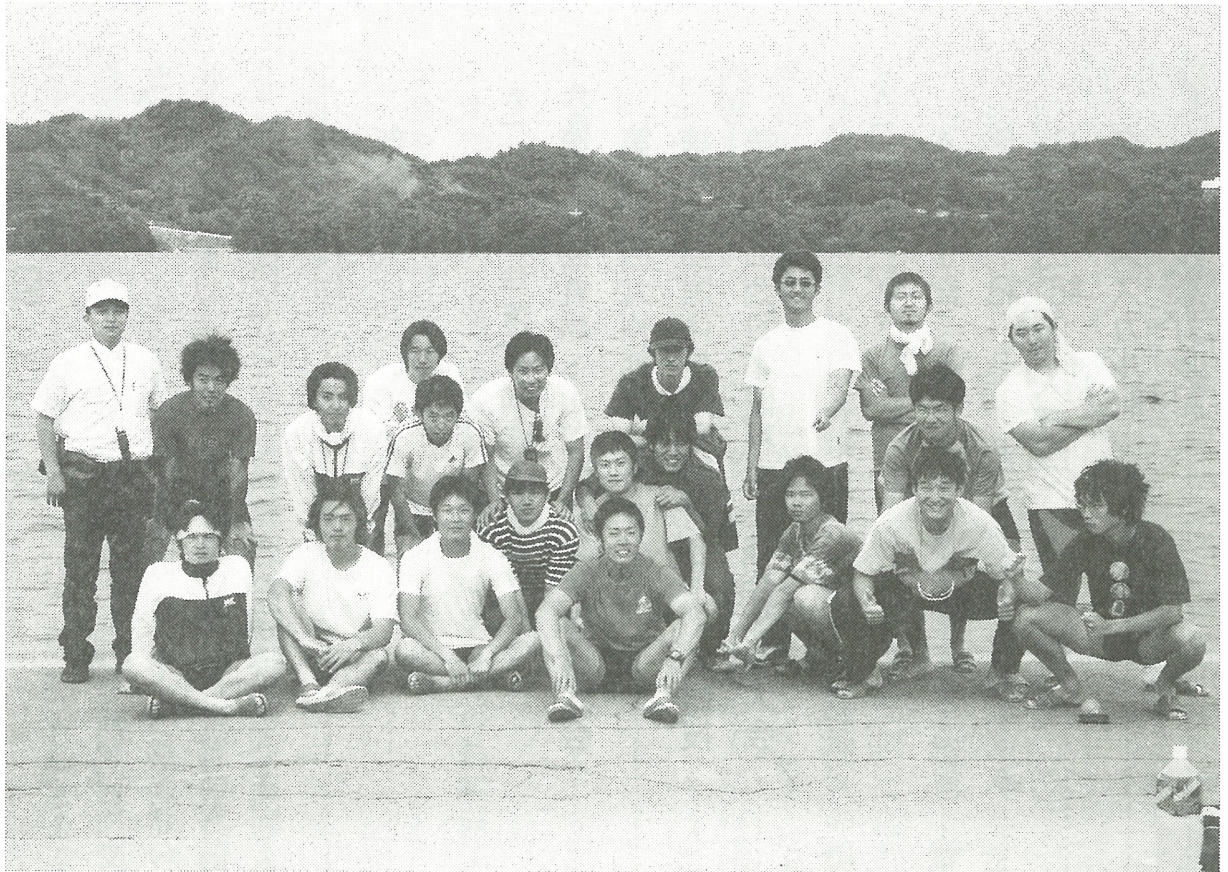
今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らけく



平成 13 年国体選考会（長崎 形上湾漕艇場）



平成 13 年西医体ボート部門（福岡 遠賀川漕艇場）



## 目次

△特集▽	
一年を振り返って	一
関西朝日レガッタ出場辞退の経緯	五
新主将挨拶	六
新艇購入について	七
△二〇〇一年度試合結果報告▽	
第三九回九州・山口医科学生体育大会	八
第四八回九州朝日レガッタ	九
第五六回国体長崎県選考会ボート競技	十
第五三回西日本医科学生総合体育大会	十一
△コックス記▽	
Aクルー記	十四
Bクルー記	十七
Cクルー記	十八
ダブルススカル記	十九
シングルスカル記	二〇
△卒業生から▽	
△新入生の紹介▽	
△部員雑感▽	
△その他▽	
長崎大学医学部漕艇部OB会会則	三六
長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿	三七
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	四四
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	四五
長崎大学医学部漕艇部役員名簿	四六
△ホームページ紹介▽	
△編集後記▽	
	四八

# 特集

## 一年を振り返って

前年度主将 崎元 晋

今回の活動報告は、今年度の総括と次の幹部への引き継ぎという意味を込めて私を感じたこともふくめています。内容も部員向けのもが多く、OBの先生方には退屈でしょうが何とぞお許し下さい。

### 「九月～三月 オフシーズン」

オフシーズンは、去年から始まった二月の長崎県エルゴ大会を最大の目標とした。

九月～十一月

この期間は例年通り、乗艇練習四回 陸トレ五回（Aクルーは七回）を行った。なお恒例の十一月半ばの宮崎医大との二校戦は、あちらの部の問題でクルーが組めないという事だったので、今年は佐賀医大との合同練習、交流戦（十一月十一日、子子川開催）を行うという方針をとった。

乗艇練習であるが、クルーはAクルーを組み、シエルも一艇、ダブル艇、シングル二艇という編成とした。まず残念でならないのが、シーズンを終わって考えて、この時期の乗艇練習がシーズンにおけるボートの技術にほとんど反映されていないということである。確かに二校戦（今年は交流戦）がイベント的性格を持ち、また乗艇練習期間が十一月でいったん途切れてしまうという事実があるが、目的意識を各自しっかりとつべきであろう。また、冬場の乗艇練習も子子川ほど日没の影響を受けない浦上川を使つての練習も来年は視野に入れてやってもよいのではな

いか。  
陸上トレーニングはrun一回（Aクルーは三回）、持久系ergo一回、ヘビーウェイトトレーニングが三回であった。

十二月～三月

陸トレ中心になるのがこの期間である。練習は週七回で、内訳はrunが二回、持久系ergoが一回、エルゴの短いセットを一回、ヘビーウェイト筋力トレーニングは三回とした。去年のオフシーズンは比較的優れた成績を残せたということもあり、今年もほぼ同じ内容を踏襲させてもらった。あとオフシーズンの最後には一〇〇〇mのタイムトライアルも行いクルー選抜の参考にもした。

基本的にオフシーズンの陸トレに関しては、最大筋力の

向上というか、はつきりいえば体をでかくして基礎体力をつけることを主眼とし、runとH・Wを主体とした。表現は幼稚であるがこのことはシーズン中にはできないことであり、線の細さは長大の敗因として数年いわれ続けていることである。多様なメニューをこなすのもよいが、中途半端にならずに根本を考え直すところのようなメニューもよかつたのではないか。

### 結果と反省

問題だったのは前述でもふれたが、冬場の乗艇練習のことである。オフシーズン中は、国体出場権にもかかわるエルゴ大会もあるし、体力強化を最重要に考え去年同様思いきって陸トレのみを行ったのだが、残念ながらこのことが後に裏目に出たといわざるを得ない。この問題はあとのシーズンのところで書こうと思う。

目標としたエルゴ大会の二〇〇〇mタイムトライアルは、結果を見ると去年に続き、なかなかの好成績であった。上位も七分を切るものもあり、またほとんどの部員が七分三〇秒台をだしており、全体の底もあがったのも特徴のひとつだった。ただひとつ気になったのは、Aクルーに相当するもの四人とそれ以外の部員の記録に明らかかな差があったということである。やはりAクルーへの競争の少なさ、部の層の薄さという長大の慢性的な病気は治っていない。

### 「三月〜八月 シーズン」

部全体を見て

クルー編成は、Aクルー、Bクルー、教育クルー（三つのポジションを五人で乗り回し）、ダブルスカル1艇で、県漕後から一年生クルーを固定し、一年生シングルスカルを二艇とした。一年生のシングルスカルに関しては、人数の調整や怪我の問題、クオドルプルの導入などの点でやむなく作つたのだが、氏家さんがおっしゃったとおりシングルは初心者にとつて難事である。大場と原口はよく頑張つたと思う。二人には感謝したい。

今年度の部の最大の問題を挙げるとすれば、それは何よりも部員の怪我につきるのではないか。

今シーズンはオフシーズンを含めて一年生以外すべてのクルーが怪我に悩まされた。Aクルーも例外ではなく、オフシーズンからかぞえて二人もメンバーが入れ代わり、西医体前の漕ぎ込む時期も例年の半分ほどしかメニューをこなせなかつたのは大変残念である。

対策としては十分なウォームアップと入念なストレッチ、あと腹筋、背筋運動によるナチュラルベルトの強化であるし、もし怪我を負ってしまったとしても、頻繁に病院に通い、ベルトやサポーターをまいてできる限りの練習をこなすといった基本的なことにつきるのではないか。

スポーツと怪我はきつてもきれない関係ではあるが、子川でのウォームアップで決められた量を全部走る者が僅かという状況では怪我をするのも目に見えている。そのこと自体にたいした意味がなくとも、まずは気持ちの面から、部全員で怪我に対する態度をかえるべきだろう。怪我をしているのに無理をしろというわけではないが、今年優勝した鳥取クルーの一人は全身サポーターで覆い、まともに歩くことすらできていなかった。これが優勝するものと同じなもの差なのかと感じずにはいられなかった。また自分らの先輩の及川さんも骨折しながら漕いだという話もある。後輩達にはこんな気迫に少しでも近づくように、気持ちを含めて練習してほしい。

あと他に例年問題とされているのに何も対策が嵩じられていないものとして、シーズン中はクルー単位で行動するため部としての一体感が薄れてしまうということがあ

る。違うクルーになったらと何を考えているのかもわからな

いということもおこるし、部員のケアということもおろそかになるだろう。現在ボート部のキャプテンは基本的にAクルーのものがやることになっている。Aクルーのクルーキャップとして練習に集中し、なおかつ部の全体を見渡すということが要求されるが、ここ何年かをみても、現実には両方こなすのはなかなか難しいようである。Aクルーが優

勝したときでも他のクルーの成績は芳しくなく、またもう一方はその逆のパターンである。

そこでひとつの案としては例えばキャプテン職をBクルーの幹部がやってみてもよいのではないか。体力的にAクルーに乗れなくても、考え方、己がしっかりとしたもの

がキャプテンで、そのものがAクルー、一年クルーなども含めてしっかりと部を統率すれば、この問題は解決の方向に近づくのではないか。ひとつの案として可能性を探ってみれば幸いである。

Aクルーについて

今年度のAクルーは西医体決勝四位と、メダルは逃したが五年ぶりに成績を残すことができた。ただし技術的なことに関しては、ここ何年かで比べるとかなり低いところにあったのではないかとおもう。シーズン最初の頃、氏家コーチにいわれたのは、Aクルーに残ったものと新しく乗ったものの技術の差がひどすぎるといふものだった。

この原因は去年のBクルーのレベル（あまり練習できていなかった）の問題もあり、さらにAクルーが冬場に乗艇練習をほとんどこなさなかったことにある。そのために氏家コーチの指示に従い、あくまで西医体に目標をしぼるため、サイドチェンジをし、ライトパドルの漕ぎ込みをおこなった。そのためにシーズン当初はまったく結果を残せず、朝日レガッタも辞退し、我慢を続けたのを憶えている。口

ングの漕ぎ込みは通常、冬場におこなうもので、長大は練習場の関係からこの点が難しいのだが、浦上川で漕ぐという選択肢もある。後輩達には同じ失敗をくり返してほしくないという気持ちである。

もらいたい。道は通るより、作るほうがはるかに難しいものであるけれども、後輩諸君はそれができると信じている。是非頑張ってもらいたい。

### 「終わってみて」

氏家コーチにシーズンが終わって挨拶に伺ったときに言われたのだが、秋のひまな時期に部員のうち数人で、ほかの大学に合宿をさせてもらいに行くのもよいのではないかということだった。コーチにモーターボートの上から指示を受けるだけよりも、一緒に船に乗って実感するほうが吸収もはやいだろうということだ。

いま長大Aクルーは、シーズン中限界に近いほど練習をこなし、そのわりにはなかなか結果がでないという傾向にある。原因のひとつとしては先ほど挙げた冬場の漕ぎ込みの問題もあるが、環境の問題もある。いま子子川で練習しているのはわれわれだけという現実があり、これでは関西勢と明らかな技術の実力差がでるのは当然である。

我がボート部はもうここ何年か優勝から遠ざかっているという事実もあり、同じことをくり返してはいけないと感じる。二十年前、永山先生、難波先生、今里先生が東北大学ボート部の合宿にいき、それから長大の快進撃がはじまったように、後輩達にはいちどおおきく根本を見直して

## 朝日レガッタ出場辞退の経緯

対校クルーコックス 田浦 康明

毎年五月、滋賀県の琵琶湖漕艇場で行われる関西・朝日レガッタは、社会人のみならず各大学の全学系ポーター部、加えて医学系の中では滋賀医科大学、鳥取大学医学部など西医体でも屈指の強さを誇るクルーが多数参加するハイレベルな大会です。

Aクルーは、数年前からこの大会に出場しており、全国区のレベルを知るとともに、同じ医学系ポーター部の実力を確認してきました。今までのところ良い成績は残せていないのですが、ボート競技の奥深さを知るといふ点では大変良い経験を積んでいます。

しかし、今年はこの大会に参加しませんでした。後日、山本太郎先生が現地まで応援に行かれたという話をお聞きして、出場を辞退したことをお伝えしなかつたことを大変申し訳なく思っております。他にも応援に行かれた先生がいらつしやるかもしれません。この場を借りてお詫びを申し上げるとともに、参加を辞退するに至つた経緯をお話しさせていただきます。

今シーズンは、Aクルーのメンバーを固定できたのが春合宿の直前、三月中旬の頃でした。それまでもやはりAクルーは組んでいたのですが、相次ぐ故障によってやむなく

メンバーを変更するに至りました。四月終わりには佐賀県で九山が行われたのですが、この大会での結果は後述の通り散々たるものでした。練習不足も原因なのですが、なによりも整調サイドとパウサイドで技術・体格が違いすぎると氏家コーチから指摘を受けました。技術力の差は理解してはいたのですが、このまま練習を続けても西医体で必ず負けると言われ、氏家コーチの助言に従つてサイドチェンジ（崎元と高田）をすることとなりました。二人ともに両サイドを経験しており、すでに大会の参加費も払つてはいたのですが、Aクルーとしての完成型には程遠く、なによりも未熟なままで関朝という大きな大会に出ることは、得られる経験以上に多大なリスクを払わなければならないのではと考え、辞退することとなりました。

結局のところ、八月の西医体では決勝四位という成績を残したのですが、四月のあの時点では、クルーキャップの崎元にとつて、またコックスの私にとつても苦渋の選択といつた感じでした。

今後、特に支障がないかぎり朝日レガッタに参加したいと思つています。ボート競技の性質から、多くの試合に出場するといふことがなかなかできませんが、これほどの大規模な大会は、他の部では体験のしようもない事だと思えます。

貴重な経験を結果に結びつけられるように、今後も貪欲に上のレベルを目指してがんばろうと思えます。

## 新主将挨拶

四年 近藤 学

一昨年、昨年ともに総合四位と我がボート部の西医体での成績は徐々に復活の傾向にあり、今年はぜひとも久々の総合優勝を、と現役部員は日々練習に励んでいます。また昨年は五人の新入生が入部しましたが、一人も欠けることなく続けてくれているのは非常に喜ばしいことです。

さて、私が対校クルーに乗り始めて今年で三年目となりました。前二年は秋の時点で対校クルーを組んでいたのですが、今年の秋は対校クルーを組まず均等クルーで乗艇練習を行っています。私の当初のプランでは前二年と同様に秋から対校クルーで練習し、少しでもクルーの成熟度を上げようと考えていたので、実際は組めなかったというべきでしょう。その理由として二つ挙げられます。

なにより大きいのは故障者が多すぎることです。前年度の対校クルーからも故障者が出てしまい、代わりに乗るべき上級生ものきなみ故障を抱えているというのが現状です。日々の練習において故障予防には十分気を使っているだけに頭を抱えるばかりです。幸い私自身は今まで一度も故障したことはないのですが、それだけに故障者に無理を

強いることはできません。ただ過去に多くの先輩が故障を抱えながらも対校クルーで漕いでおられたのも事実であり、なんとか故障と上手く付き合い、一人でも多く対校クルーの漕手に名乗りを挙げて欲しいものです。

二つ目の理由としては、現役部員十五名のうち来年引退する部員が六人もいるため現一年生の底上げが急務であることです。下級生には少し辛い練習も含まれていますが、皆よくついてきてきてくれます。

現状はなかなか厳しいですが、入部当初からの目標である西医体の優勝と国体出場を果たし、気持ちよく次の世代にバトンタッチしたいと思えます。

# 新艇・エンパツハについて

二年 和佐野喜也

## 新艇の選考

### I 国産艇と外国艇の比較

現在、医学漕艇部は国産艇（桑野造船）と外国艇（フィリッピ）を所有しているが、今までの使用経験からいえば、外国艇のほうが耐久性に優れている。桑野の船は、何年もしないうちにビームが腐食してしまうのである。ビームの素材はアルミのものとステンレスのものがあるが、いずれの場合も大差はない。

フィリッピの船は骨格部分と艇が一体化しているのだが、桑野の船は艇に空洞をつくり、その中にビームを収めるといふ構造になつてゐる。そのため、空洞内に塩がたまり、ビームを腐食させるのである。これは構造的な問題だと思われる。ただし、他大学ではうちのように速く腐食することはあまりないとのことである。淡水と海水の塩分濃度の差によるのであろう。

リガー、ラダー、レールなどの部品については、特にどの艇が壊れやすいということはない。ただし、国産艇はすぐに代わりの部品を取り寄せることができるが、外国艇は時間がかかってしまう。現在外国艇の部品は共通化される

方向にあるので、この点については改善されるであろう。

### II エンパツハとフィリッピの比較

エンパツハとフィリッピの違いは艇の剛性にある。これは外国艇と国産艇の違いについてもいえることであるが、剛性が大きいほどすなわち強度が大きい艇ほどスピードは速い。これは艇の強度が弱い場合、蹴りのエネルギーの一部が船の変形（しなり）につかわれてしまうため、艇の推進力がロスしてしまうことによる。

エンパツハは高価であるが、フィリッピより剛性が大きいため、最も艇速が出ると考えられる。

一般に外国艇のほうが国産艇より剛性が大きい。氏家コーチによると、国産艇と外国艇の価格差はかなり小さくなつたため、積極的に国産艇を使う利点はあまりないとのことである。実際、現在使用しているフィリッピ艇は使用頻度が高いにも関わらず、かなり長持ちしているといえる。



# 二〇〇一年度試合結果報告

## 第四〇回九州・山口医科学生体育大会

二〇〇一年四月二十二日

佐賀県唐津市松浦川漕艇場

### 男子対抗舵手付きフォア（四クルー）

蓋世：C 田浦康明、S 近藤 学、三吉武記一、

二高田 潤、B 崎元 晋

### 決勝

- |              |         |    |
|--------------|---------|----|
| I 蓋世         | 五分〇一秒二〇 | 三位 |
| II 早良（福岡大）   | 五分四五秒五一 | 四位 |
| III 煌牙（産業医大） | 四分四三秒九二 | 一位 |
| IV 魁偉（佐賀医大）  | 四分四六秒四七 | 二位 |

### 男子オープン舵手付きフォア（六クルー）

鴻 図：C 冬野誠也、S 山道 忍、三小河原大樹、

二山口仁平、B 末下雅也

雄 図：C 西條知見、S 和佐野喜也、三夏田孔史、

二荒木孝太郎、B 高木理博

### 予選A（三一）

- |              |         |    |
|--------------|---------|----|
| I 花子（福岡大）    | 六分五一秒一七 | 三位 |
| II 雄 図       | 五分四五秒八三 | 二位 |
| III 魁翔（佐賀医大） | 五分三九秒六五 | 一位 |

### 予選B（三一）

- |              |         |    |
|--------------|---------|----|
| I 篠山（久留米大）   | 六分五〇秒九五 | 三位 |
| II 桃太郎（産業医大） | 五分二九秒二〇 | 一位 |
| III 鴻 図      | 五分四七秒二五 | 二位 |

二位はタイムの早いほうが決勝進出

### 決勝

- |               |         |    |
|---------------|---------|----|
| I 雄 図         | 五分一五秒二一 | 二位 |
| II 魁翔（佐賀医大）   | 五分一五秒九五 | 三位 |
| III 桃太郎（産業医大） | 五分〇八秒二〇 | 一位 |
| IV 不死鳥（宮崎医大）  | 五分二六秒四九 | 四位 |

第四八回九州朝日レガッタ

二〇〇一年五月十九、二十日

福岡県遠賀川漕艇場

一般男子舵手付きフォア(十二クルー)

蓋 世：C 田浦康明、S 近藤 学、三吉武記一、

二高田 潤、B 崎元 晋

鴻 凶：C 冬野誠也、S 山道 忍、3 夏田孔史、

二山口仁平、B 末下雅也

予選 B (四―二)

I 羅漢(山口大) 三分四〇秒四六 一位

II 槍翠(産業医大) 三分五二秒三二 三位

III ひぬらし(熊大全学) 四分〇〇秒四四 四位

IV 蓋世 三分四四秒六四 二位

予選 C (四―二)

I 鴻凶 四分三五秒六二 四位

II 熊本学園大学 三分五四秒八四 一位

III 新日鉄八幡 四分一二秒二五 三位

IV 園漕会 四分〇一秒一〇 二位

敗復 F (四―二)

I 周防(山口大) 四分三一秒九四 三位

II 槍翠(産業医大) 四分二九秒七一 二位

III 鳳陽監(山口大) 四分二三秒二八 一位

IV 鴻凶 四分三五秒六〇 四位

準決勝 J (四―二)

I 焯牙(産業医大) 三分三六秒九〇 二位

II 熊本学園大学 三分三二秒六九 一位

III 蓋世 三分三七秒一二 三位

IV 鳳陽監(山口大) 三分四三秒〇三 四位

一般ナツクルフォア(十クルー)

雄 凶：C 猪狩圭介、S 和佐野喜也、三原口雅史・

松浦良樹、二西山光郎・大場修治、

B 茅田洋之

予選 C (五―二)

I 新菱 二分二八秒一三 一位

II 雄凶 二分五九秒九一 四位

III 遥(佐賀医大) 三分一〇秒四四 五位

IV 秋月(久留米大医) 二分三三秒八九 三位

V 轟天(佐賀医大) 二分三〇秒三〇 二位

敗復D (四―二)

I 雄図	三分〇二秒四八	四位
II 福岡教育大	二分一九秒一〇	一位
III ボートクラブ	二分二七秒三四	二位
IV 昇天 (佐賀医大)	二分三八秒〇四	三位

一般男子ダブルスカル  
 碧：S 荒木孝太郎、B 豊田啓介

予選A (五―二)

I 大村高校	四分三七秒四〇	二位
II 九州大学		
III 熊学付属高校B	四分三九秒九五	三位
IV BUSTERS	四分一二秒五三	一位
V 碧	四分四四秒七一	四位

敗復

I 熊学付属高校A	四分〇六秒六六	四位
II 熊学付属高校B	四分〇三秒〇三	三位
III 八幡工業高校	三分五三秒三六	一位
IV 碧	四分〇二秒〇八	二位
V 博多高校	四分二九秒一三	五位

第五六回国体長崎県選考会ボート競技

二〇〇一年六月三日

長崎県琴海町形上湾特設漕艇場

成年男子舵手付きフォア

蓋世：C 田浦康明、S 近藤 学、三吉武記一、 二高田 潤、B 崎元 晋	鴻 図：C 冬野誠也、S 山道 忍、三夏田孔史、 二山口仁平、B 末下雅也	雄 図：C 猪狩圭介、S 和佐野喜也、三松浦良樹、 二西山光郎、B 茅田洋之	崎 陽：C 小河原大樹、S 渡辺庸平、三青山英和、 二原口雅史、B 大場修治
---	--	---	---

予選A (四―二)

I 崎陽	四分三九秒〇四	四位
II 園漕会	三分三八秒三七	一位
III 鴻図	三分四七秒五九	二位
IV 佐世保工専A	三分五四秒八五	三位

予選B (四―二)

I 蓋世	三分三三秒三四	一位
II 佐世保工専B	三分三五秒一六	二位

III 雄凶 五分〇七秒五六 三位

決勝

I 佐世保高専B 三分一八秒三〇 一位

II 園漕会 三分一八秒八〇 二位

III 蓋世 三分二〇秒一〇 三位

IV 鴻凶 三分四〇秒九〇 四位

成年男子ダブルスカル

碧：S 荒木孝太郎、B 豊田啓介

決勝

I 園漕会 四分五七秒〇〇 二位

II 碧 四分〇六秒四〇 一位

二高田 潤、B 崎元 晋

鴻 凶：C 冬野誠也、S 山道 忍、三末下雅也、

二山口仁平、B 夏田孔史

予選A (六一三)

I 浮立 (佐賀医大) 三分五二秒五四 五位

II 瀏濫 (浜松医大) 三分五四秒〇五 六位

III TRISTAN (大阪大) 三分三九秒五〇 一位

IV 煌牙 (産業医大) 三分四八秒七六 四位

V 鴻凶 三分四八秒七六 四位

VI 虎伏 (和歌山医大) 三分四二秒八四 三位

予選D (六一三)

I 重徳 (金沢大) 四分五三秒八二 五位

II 蓋世 三分五六秒二五 一位

III 魁翔 (佐賀医大) 四分二六秒〇〇 四位

IV 天風 (岡山大) 四分二〇秒〇四 三位

V 玄海 (福岡大) 五分三八秒二五 六位

一次敗復A (六一三)

I 瀏濫 (浜松医大) 四分四〇秒七八 三位

II 竜王 (広島大) 四分三三秒五〇 二位

III 鴻凶 四分四三秒一三 四位

第五三回西日本医科学生総合体育大会

二〇〇一年八月四、五日

福岡県遠賀川漕艇場

男子舵手付きフォア (二十四クルー)

蓋 世：C 田浦康明、S 近藤 学、三吉武記一、

- IV 不死鳥 (宮崎医大) 四分一二秒七五 一位
- V 重徳 (金沢大) 四分四六秒七九 六位
- VI 早良 (福岡大) 四分四三秒五一 五位

二次予選A (六一三)

- I 虎伏 (和歌山医大) 四分三〇秒九九 六位
- II 泰斗 (滋賀医大) 四分一一秒一九 二位
- III TRISTAN (大阪大) 四分一八秒六九 四位
- IV 蓋世 四分一〇秒八三 一位
- V 魁偉 (佐賀医大) 四分一一秒五七 三位
- VI 天風 (岡山大) 四分二〇秒一四 五位

準決勝A (六一三)

- I 天風 (岡山大) 三分五〇秒八七 五位
- II 不死鳥 (宮崎医大) 三分五〇秒一七 四位
- III 蓋世 三分四七秒三六 二位
- IV 芝蘭 (京都大) 三分四八秒二八 三位
- V 魁偉 (佐賀医大) 三分四六秒九三 一位
- VI 煌牙 (産業医大) 三分五六秒〇五 六位

決勝

- I 泰斗 (滋賀医大) 四分〇九秒〇二 五位
- II 飛騨 (滋賀医大) 四分〇九秒三四 六位

- III 芝蘭 (京都大) 四分〇三秒七四 二位
- IV 魁偉 (佐賀医大) 四分〇七秒〇二 三位
- V 蓋世 四分〇七秒三一 四位
- VI el viento (鳥取大) 四分〇二秒二四 一位

男子ナックルフォア (十七クルー)

雄 凶: C猪狩圭介、S和佐野喜也、3松浦良樹、

2西山光郎、B茅田洋之

予選B (六一三)

- I 三年B組 (浜松医大) 四分一一秒七一 三位
- II 熊楠 (和歌山医大) 四分一〇秒一一 一位
- III 桃太郎 (産業医大) 四分一〇秒九七 二位
- IV 雄凶 四分二九秒〇三 五位
- V ゴルゴITAMURA (大阪大) 四分二九秒八二 六位
- VI 滋賀医科大学B 四分一八秒〇九 四位

敗復B (五一二)

- I 黒潮 (金沢大) 五分〇六秒三三 二位
- II 日本海 (金沢大) 五分〇九秒八六 三位
- III 難破船 (浜松医大) 四分五四秒四二 一位
- IV 雄凶 五分二〇秒八三 五位
- V 槍翠 (香川医大) 五分一〇秒六七 四位

男子ダブルスカル(四クルー)  
二回レースによるポイント形式

碧：S 荒木孝太郎、B 豊田啓介

射場(宮崎医大)  
彗星(岡山大)

ポイントレース一回目

- I Jonathan (滋賀医大) 四分三四秒〇九 二位
- II 碧 四分四〇秒六九 三位
- III LIBRA (大阪大) 四分五九秒〇一 四位
- IV 紅翔(京都大) 四分三二秒〇四 一位

- 一次予選B
- I 田嶋(京都大) 四分一一秒二九
  - II 当別当(宮崎医大) 四分一二秒七六
  - III あけぼの三号(滋賀医大) 四分二三秒八二
  - IV 華月(広島大) 四分三七秒五四
  - V 原口雅史 五分二七秒二四

ポイントレース二回目

- I Jonathan (滋賀医大) 三分五四秒二五 二位
- II 碧 四分一三秒四九 四位
- III LIBRA (大阪大) 四分一二秒八六 三位
- IV 紅翔(京都大) 三分五三秒五〇 一位

敗復

- I 華月(広島大) 五分四三秒六〇
  - II 原口雅史 六分五四秒三五
- 準決勝A
- I 田嶋(京都大) 四分一五秒六五
  - II 大場修治 四分四〇秒八五
  - III 華月(広島大) 四分三二秒六六

男子シングルスカル(九クルー)

大場修治、原口雅史

準決勝B

- 一次予選A
- I 採天(滋賀医大) 四分一五秒九三
  - II 大場修治 四分五四秒二四
- 谷口(鳥取大)

- I 採天(滋賀医大) 四分〇八秒九〇
- II 当別当(宮崎医大) 四分一四秒八二
- III あけぼの三号(滋賀医大) 四分一八秒三二
- IV 原口雅史 五分一二秒九七

## COX記

### Aクルー記

四年 田浦 康明

今シーズンは、十月から週一回の乗艇をこなしていたが、相次いで故障者が出てしまい、固定メンバーになったのは三月に入ってからだった。二月に大村で行われたエルゴ大会も、Aクルーの中では（部員の中でも）近藤一人だけが七分を切るタイムだった。

九山に関しては、練習で乗艇回数が少なかったため、未熟なまま試合をすることとなった。

九山後は関西朝日レガッタに参加する予定だったが、氏家コーチの助言で参加を見送り、サイドチェンジをして、西医体に向けた長期的な展望で技術の向上を目指した。また、新たにリギングも細かく調節しなおした。その結果が西医体決勝四位というものに表れたと思う。

### 九山

前述のとおり九山に関しては完全な練習不足のまま臨んだ。新たにAクルーに選抜した吉武、高田は体力的には申し分ないほどだったが、二人ともBサイドで、技術的に他の二人と差があるため、この頃の練習はライトパドルを中

心に乗艇を行った。ただし、あまりに差があったので、正直なところ練習内容が限られていたという面もあったかもしれない。

反省点として、この時期はクルー全体に危機感がなかった。練習ができないことを「しかたがない」という気持ちで受けとめていたような気がする。それは結果として表われることになるのだが。

### レース

決勝：コンディションが非常に悪く、発艇台にもつけないままでのランニングスタート。スタートローイングでSサイドの蹴りが強くBサイドに曲がったためにサイド漕ぎでレーンに戻す、この時点で佐賀医、産業と一艇身差、福大にもやや出られる。五〇〇m足蹴りで福大を抜き三位、七〇〇mから二枚上げを入れるが差は縮まらず二位でゴール。

### 九朝

サイドチェンジをしてからの練習は、個人の技術の向上と共に、蹴りのイメージを一致させることからはじめた。崎元、吉武のレンジを基準とし、全体のレンジを短くした分キャッチから蹴ることと回転数（ピッチ）を上げることを考え、このイメージを西医体まで徹底させた。また、九山前にはまったくパドルの練習をしなかったため、九朝前はスタート練習と並行してパドルも少し取り入れた。

## レース

予選：スタートはうまくいくがローイングで左右にばたつき、山大一番艇にキャンバス出られ二位。コンスタントに入ってもピッチが高く蹴りが合わない。中盤以降では落ち着いて漕げていたが、山大との差は縮まらず二位のままゴール。

準決勝：スタート出遅れ四位。予選よりはピッチも安定し艇速も出る。三〇〇m付近で山大二番艇かわし三位、二位産業との差一艇身。六〇〇mあたりで産業の艇速落ちてくる。七〇〇m二枚あげ、八〇〇m二枚上げでほぼ同艇、最後かわした瞬間にSサイド切れ込んで艇速落ちる、三位ゴール。

## 県 漕

### レース

予選：スタート切れ込んで艇止まる、なんとかローイングにつなげたが漕ぎがばらばらで艇速出ない、佐高専と一艇身差の二位。二五〇m足蹴りで約半艇身差、ピッチは高いが水中弱くあまりのびない。五〇〇m足蹴りをいれてから落ち着いて漕げるようになり、やや出て一位。残り九〇〇m二枚上げ、一位ゴール。

決勝：スタートローイングそろそろも水中弱く佐高専、園

漕会に一艇身差。コンスタントから二五〇m、五〇〇m足蹴りで少し縮まるが、七〇〇m過ぎから各艇スパートを入れ、一艇身差のまま三位ゴール。

## 西医体

県漕が終わって、スタートが弱いというのがみんなの一致した意見で、氏家コーチの助言に従いローイングのピッチを落としてでも水中を強くしようという心がけた。蹴りのタミングはキャッチからだ決めていたので、スタート練習に加えてキャッチを厳密に合わせる事に重点をおいた。重心の左右へのふらつきも改善すべきところではあったが、これは結局直すことができなかった。

## レース

一次予選：スタートのマイクが聞こえず、蓋世と芝蘭が漕ぎ始めてスタート、ローイングピッチは高い。三〇〇m、五〇〇m足蹴りはきちん入り、七五〇m二枚上げ、九〇〇m二枚上げを入れる。二回目はピッチ上がらなかつたが、一位ゴール。

二次予選：スタートローイングで滋賀医、阪大に続き三位。二五〇m足蹴りで阪大を抜き二位、若干佐賀医がでてくるが五〇〇m足蹴りの時点で引き離して二位。七〇〇m付近で佐賀医に並ばれるが二枚上げで再び引き離す。八五〇m



二枚上げでは艇速伸びない。二位ゴール。

準決勝：スタートローイング蹴りが弱く出遅れて六位。二五〇m足蹴りから艇速にのり産業に追いつく。五〇〇m手前から岡大、宮医が落ちてきて足蹴りで四位浮上。宮医を抜いたあと七五〇m二枚上げで二位、佐賀医と同艇。九〇〇m二枚上げ、二位ゴール。

決勝：スタート出遅れて六位。鳥大、滋賀医が抜け出て他三艇だんご状態。二五〇m、五〇〇m足蹴り入れるが佐賀医と半艇身差の六位。五〇〇m過ぎで滋賀医が二艇とも落ちて四位浮上。七〇〇m、八五〇mの二枚上げで佐賀医に追いつき三位争い。最後ははなの差で結局四位ゴール。

### 総括

今シーズンのAクルーはまさにパワーの固まりであった。おそらくここ近年のAクルーの中でもパワーだけなら一番だったと思う。それが、サイドチェンジをしてからわずか三ヶ月で西医体決勝4位という結果に結びついたと思われる。

が、逆に言えば、技術力の不足、すなわち乗艇回数不足という点がいなめない。力をつけることは、艇速を伸ばすうえで最も重要なことであろうが、その力を一〇〇%艇速に結び付けるのは容易でない。九山では近年まれにみる

惨敗を喫し、県漕では相変わらず勝つことができなかった。スタートで出遅れるという、展開としては最悪なパターンを最後まで直すことができなかったのが最も反省すべき点である。無論、合宿中に氏家コーチの助言やビデオを見ていろいろと試みてはいたのだが、そもそもスタート練習は一回の乗艇でできる本数が限定されているため、早い時期できれば春合宿から始めることが大切であると思う。また、少しでもいいからオフシーズンにもスタート練習をして、部員全員に理想的なスタートのイメージを掴んでもらうのも良いのではないかと思う。

また、練習相手を見つかることも重要である。Bクルーと数回並べて走ることがあったが、ライトパドルでは艇速で負けることがしばしばあった。下のクルーががんばることは部全体としては好ましいのだが、Aクルーとして情けない状況や時期があったことも事実である。馴れ合いがあつたわけではないだろうが、次のAクルーはこのような状況を作らないよう期待したい。個人的な意見だが、ボートは相手に勝つてこそその競技であり、良いタイムをだすことが目的ではない。

そして最後に、Aクルーはやはり勝つことが至上目的であると思う。九山や県漕は年々規模が小さくなっていくように思えるが、であればこそ優勝を掴むべきである。それは、Aクルーのみならず、部全体の気持ちをいい方向へ導いてくれるだろうから。

## Bクルー記

二年 冬野 誠也

コックスのデビュー戦となったこの試合、九山優勝を目標としていたBクルーには当然予選一位上りを狙っていた。がしかし、結果はとんでもないことに。試合当日の松浦川のレースコンディションはひどく、波が高く、風も強かった。スタートして始めの一〇〇mまで、隣の二レーンの産業と並んでいたが、そこで異変に気づく。舵が利かない！初めてのコックスで、どんな事があってもレーン侵害なんかしてクルーのメンバーに迷惑だけはかけまいと思っていたが、予想もしなかったこの展開、必死に「バウ強く！」と叫ぶものの気がつけばもう2レーンのブイの中。あやうく産業のオールにぶつかりそうになったので艇を止める。出ていたのに・・・その後、なんとかゴール。それでも2位だったが、Cクルーに二秒負けており決勝に上がれず、忘れられないデビュー戦となった。

### 「九朝」

三番の小河原さんに代わり夏田に。練習はクルーのメンバーの腰痛などの怪我により、短いよりライパが主となった。スタートやピッチの高い漕ぎの練習が充分できず、試合でも予選敗復ともにスタートから出られ、根本からの

建て直しを余儀なくされた。でもとりあえず何も起こらずゴールできてほっとした。

### 「県漕」

予選は園漕会に負けたものの難なく決勝進出。初めてレースといえる試合ができて、メンバーのテンションも上がった。が決勝はやはり厳しく最下位、スタートがまだまだ課題である。このときも何も起こらずゴールできてホッとした。ドキドキするものです。

### 「西医体」

予選、周りは読み方もわからないようなクルーばかり。強そう。チャレンジ心で挑む。コックスデビューにくらべ一応試合はできるようになったもののやはりスタート前にはちゃんとゴールできるようにと神様にお祈りを。スタートで出遅れるもののノリのBクルー、中盤叫びまくって四位浮上。しかし、スタミナ尽きるのも早く、その後はいまいち、敗復にまわる。敗復で負ければ屈辱の初日敗退。それだけは嫌だった。しかし、遠賀の荒波が九山の松浦川を思い出させる。嫌な予感的中した。スタート一〇〇mのちよいすぎで木の板がラダーにくいこんだ。一〇〇mを過ぎていたため再スタートを要請しても聞き入れられず、もちろん最下位スタート。しかしそこから最高の漕ぎをみせ、四位浮上。三位にはあと半艇身とどかず決勝にはあが

れなかった。くやしくてくやしくて仕方なかった。僕にはまだ先があるわけで、

これで引退となる先輩たちには本当に申し訳なかった。でも、実力があつても負けてしまう、悔しいけれどこれがボートだと言われて本当に泣けてきた。悔いは正直残るけれども艇を一度止めても勝利を信じて漕ぎ続けたメンバーは最高にかつこよかつたと思う。貴重な経験ができた。

最後に、我がBクルーは練習中の怪我で途中で練習を止めることが多かった。せつかく早起きまでして練習時間を稼いでいるのだからできるだけ練習できるよう日ごろから腹筋と背筋は鍛えるべきだ。

## Cクルー記

四年 猪狩 圭介

西医体以前

Cクルーは例年通り一年生の教育クルーとして編成され  
県槽までは

C 猪狩、S 和佐野、三松浦、原口、二西山、大場、B  
茅田（猪狩、和佐野以外は一年生）

で一年生が交代で乗っていたが、県槽以降は原口と大場がスカルに転向したことから三番松浦、二番西山が固定になった。

今年の一年生は朝の練習に遅刻することがほとんどなく、よく上級生のいうことについてきてくれた。コックスとしては一日に各自一個の改善目標を持たせ、集中力が持続するように意識した。二つの試合があつたが、試合の後一年生は笑顔が絶えず、のびのびとボート部を楽しんでいるようで嬉しかった。九朝のレースでは女子クルーに抜かれて悔しい思いをしたに違いない。

西医体

合宿中は一年の西山が風邪を引いて三日ほど乗艇練習が

## ダブルスカル記

四年 豊田 啓介

できない日があつたが、それを除いてはほぼ予定通りに練習をこなせた。一年生の技術面での成長もめざましかった。欲を言えばもう少し練習中声を出して欲しかった。ローヤーが他のローヤーの欠点を指摘することは〇×から見えない視点を与えてくれるとともに、全体の集中力を高めるためにも非常によい。

西医体は予選、敗復ともスタートでかなり出遅れた。予選はそれでもローイングで挽回し、五〇〇mくらいまで四位であつたが、六〇〇mで足蹴りを入れたくらいから六レーンに抜かれてしまい、八〇〇mで二枚上げを入れたが、あまり艇速が伸びず、最後はピッチも落ちていった。敗復では最初から五位で五〇〇m地点までは一艇身差で五レーンにくらいついていたが、徐々に艇速が落ち始め最後二枚上げを入れた頃には二艇身以上離れていた。総じて体力的に他に劣っていたようだ。オフシーズンの陸トレに期待したい。

二〇〇一年度のダブルスカルはストロークが豊田、バウが荒木でのぞんだ。バウがスカル初であり、また組んだのが五月下旬だったこともあり、長く漕ぎこむことよりもパドルを多くこなしていくという、今までにない練習メニューを行つてみた。しかし、その間にお互い怪我をしているように練習ができなかつた。ただし練習を行っているときは、短期間でその成果があらわれたように思われる。ある程度の経験を積んだ選手たちならば、シーズン中であつても筋トレをメインとした陸での体力づくりと、短い漕ぎこみで結果が得られるのではないかと感じた。それと、悔しいことに西医体ではストロークの靴が試合中に破れて取れてしまうということが起きた。これは夏合宿中に破れてしまった靴の換えの注文が間に合わず、仕方なく古い靴を使ったためである。今後このようなことが起こらないようにするため、消耗品は予備を備えておくべきである。

## シングルスカル記

一年 大場 修治

県漕までは教育クルーに乗っていましたが、自分の強い意志により西医体はシングルスカルで出場しました。練習では沈を何度もし、先輩方には多大のめいわくをおかけしました。西医体、予選は二艇レースにオープン参加が一艇。トップに一分差をつけられて惨敗するが、そのまま二位で準決勝進出。準決勝、三艇レース。残り二〇〇mで隣のローヤーの姿が見え始め、決勝進出が見え始めたとき切れ込み、悔しくも三位。

## シングルスカル記

一年 原口 雅史

西医体

今年は七艇しか出艇せず、自動的に準決勝進出が決定。

(予選B)

シングルの初めての試合なので、遠賀川の流れのなかで

上手く漕げることを目標にした。スタートは成功したが、その後徐々に離され、後半はモーターボートの波に対応できず最後まで思い通りの漕ぎにならなかったのが悔やまれた。

(敗復)

午後は波がさらに強くなり、技術不足のためにスタートからゴールまでに上手く漕げたのはほとんどなかった。のこり二〇〇で足蹴りをいれたが、オールに伝わりきらなかった。

(準決勝B)

前日の敗復の時と比べるとずっと良いコンディションだったので、前回上手く漕げなかったことを考え、とにかく綺麗に漕ぐことを目標にした。最後まで追いつくことはできなかったが、このレースが1番ましな漕ぎが出来たと思う。

来年こそは自分が納得のいくレース展開をしていきたいです。

産業医のみなさん、オールを貸していただいてほんとうにありがとうございます。

# 卒業生がらく

## 雑感

六年 高木 理博

ポリクリを回っていると、出身校と部活をしばしば聞かれるのだが、「君はボート部っぽくないねえ」とずいぶんいわれた。どうやら私はボート部っぽくないらしい。でも、私の大学六年間からボート部をとってしまおうと、なんにも残らない。それでもボート部っぽくない私っていったい。ボート部っぽい人もそうでない人も居心地の良いところ。それがボート部だと思ふから、自分は胸を張ってボート部だといおうと思う。でも、後輩達には是非ボート部っぽくあつてほしいと思う。きっと、そっちの方がおもしろいから。

## 部員雑感

六年 田辺 孝大

大学生活もあともう少し。最近、俺ももう歳かなあ

## 「テイクバック」

六年 渡辺 庸平

できたらいいのにねえ。  
P.S. みなさん是非仙台に遊びにきてください。

## く新入生の紹介く

大場 修治

茅田 洋之

入部以前からホ〇疑惑の絶えない男だった。最近ではあまり言われなくなつたが、出身校も地元も違う西山となんで入学式以前からあんなに仲が良かったのか、夏合宿の夜に二人に何があつたのか、など今となつては一切不明である、最近では月見で高田さんにからむなどして順調に脳細胞を破壊している。これからも部活に飲み会にがんばってほしいものだ。

西山 光郎

一言で言ううと熱い男。好きな言葉はガッツ・根性。嫌いなものはふんどし。普段は飲み会でも一人大暴れする馬鹿(＝茅田)を暖かい目で見守っているが、八剣伝の皿を頭突きで割るなど希にスタンドプレーに走ることもある。これからもその持ち前の熱さでポト部を盛り上げていってほしいものである。

九朝でご厄介になる北九州出身の彼は、ご当地では珍しくもない普通のヤンキーかと思いきや、なかなかの好青年(?)である。派手なメガネと派手な服装で一躍その人気を確立したと思いきや、メガネは乗艇にて複数個を消失し、服装はジャイアンツフリークの様相を呈してきたため、若干低迷気味であるような気がする。

最近ではバイクと原付の二束のわらじを履きこなしてブイブイいわせているようだが、その人氣が回復しているかどうかは、かれと共に合コンに行つて確認するしかないようである。

原口 雅史

高校で先輩後輩の間柄だったN君とは異なり、見た目は至極標準的な一年生である。入部したては確か飲めない体質だつたと思うのだが、実はいけるクチであり、中から新たな人格(ウル〇ラマン)が芽生えつつある。そのせいか、入部したてのところはおとなしかった彼も、だんだんと周囲の人間にあたるようになってきている。

私(田浦)はずっと「マサシ」と思っていたのだが、「マサフミ」らしい(幾度か注意されたらしいが覚えていない、ゴメンネ)。

## 松浦 良樹

まごうことなきクラシックな彼は、蓬萊さんばりのオト  
ナな服装と、猪狩さんに匹敵する豊富な音楽知識とをひつ  
さげて入部してきた。特に音楽に関しては思い入れが深い  
ようで、聴くことと同じくらい演奏することも好きなよう  
である。その音楽に加えてポートでもがんばっているため  
か、ストレスと酒による肥満傾向にあるようである。見た  
感じは新入生の中でも一番大人びているが、飲み会でも一  
番はじけているのは彼であろう。その飲み会で最近愚痴が  
多くなっていることに本人は気づいているのだろうか？彼  
に安らかなる日々が来るのはまだまだ先のことのようにあ  
る。



## く部員雑感く

### 演劇と留学

四年 猪狩 圭介

現在、演劇の練習に追われ忙しい生活を送っています。演劇公演の五日後には日本にいません。今一番ほしいものは・・・心のゆとりです。

### 引退してみて。

五年 崎元 晋

よく考えることがある。それはもしボートをやっていなかったら。

例えば・・・

やつぱうそ。無理。そんなの考えられるわけないね。

### 「やうざばドリキヤス」

四年 田浦 康明

今までのゲームの概念を変えたといっても過言でない、「シエンムー」。このゲームの『一章―横須賀』に、なんと

あの〇川さんが出演している。主人公、芭月涼の友達であり、一章のマドンナ、原崎望の友達でもある。そういえば大石さんだったろうか、原崎談義をしたのは。ちなみに、原崎のモーシヨンキャプチャーと声を担当したのはTonight 2 にでてくる安めぐみである。この子、とても俺より年下には見えない。〇川さんを見たい人は、シエンムーを買おう。Xboxでできるそうだ。

### 「仲間を大切に」

四年 山口 仁平

夏の西医体が終わって三ヶ月が経ちました。ボートを引退すると、ボートが自分の心の中に占めていた部分の大きさに気付かされます。この夏の大会を振り返ってみると、思うように練習ができないことが多かつたし、実際の結果も負けでした。でも五年間でいろいろなクルーと過ごした日々は、全て意味のあるものでした。昔、勧誘して下さった先輩方がとうございました。毎年、毒を吐きまくっていたので今年は英語の小話載せてみました。楽しんで下さい。

A young man wanted to purchase a gift for his new sweet-heart's birthday, and as they had not been dating very long,

after careful consideration, he decided a pair of gloves would strike the right note:

romantic, but not too personal. Accompanied by his sweetheart's younger sister, he went to Nordstrom and bought a pair of white gloves. The sister purchased a pair of panties for herself.

During the wrapping, the clerk mixed up the items and the sister got the gloves and the sweetheart got the panties. Without checking the contents, the young man sealed the package and sent it to his sweetheart with the following note:

"I chose these because I noticed that you are not in the habit of wearing any when we go out in the evening. If it had not been for your sister, I would have chosen the long ones with the buttons, but she wears short ones that are easier to re-move".

"These are a delicate shade, but the lady I bought them from showed me the pair she had been wearing for the past three weeks and they were hardly soiled. I had her try yours on for me and she looked really good".

"I wish I was there to put them on for you the first time, as no doubt other hands will come in contact with them before I have a chance to see you again".

"When you take them off, remember to blow in them before putting them away as they will naturally be a little damp

from wearing".

"Just think how many times I will kiss them during the coming year. I hope you will wear them for me on Friday night.

All my love".

"P.S. The latest style is to wear them folded down with a little fur showing."

## 雑 感

四年 近藤 学

ちよびゃくあと一年、がんばろうと。

## 雑 感

三年 末下 雅也

いい加減雑感を書けと田浦さんに言われた。締め切りから半年遅れだから、怒られて当然だろう。もう県漕も終わつたし、あとは西医体だけか……。シーズンの抱負というわけにはいかないかな。俺も今年で引退するし（引退します）、色んなクルーを経験してきたので、その感想を書いてみます。

Aクルー・・・俺はほんの少しだけAクルーにいた（二

年生以下は知らない)けど、途中でメンバーチェンジした。当時キャプテンだったススムさん、現キャプテンの近藤には、役に立てなくて悪かったと思う。ごめんなさい。

Bクルー：・ニシーズン、Bクルーにいる。二年目のとき、及川さんと乗ったときが有名(?)だけど、本当に貴重な経験だったと思う。それからずっと及川さんを目標にしていたけど、やはり超えられないようだ。その代わり、一緒に乗った後輩が成長して、Aクルーになっていくのを見るのは楽しい。夏田は最近へこんでいるようだが、もつと成長してください。今は、二年の西山、茅田、松浦と乗っているが、Aクルーになったとき、強いAクルーができるように、今のうちにできることはしてあげようと思っている。Cクルー・・・一年のときと、コックスのときにCクルーだった。コックスの経験は、ローヤーとしても貴重だったと思う。しかし、このときの俺はまだ先輩として十分ではなかったもので、多くの一年生が辞めてしまい、今でも悔やまれる。一年生は、部活を楽しんでください。他にやりたいことがあっても、がまんするだけの価値は絶対あるから。こうして書いてみると、良かったことより悪かったことの方が多いうのだが、そうではなく、やはり良かったことの方が多。良かった、うん。

途中で故障してしまったが、後悔は全くしていない。それだけががんばった結果だし、満足している。ただ、復帰するまでの期間は辛かったので、みんな怪我には気をつけて。

## 雑感

四年 豊田 啓介

最近、学校に行くのが億劫でしようがない。行っても寝るか、漫画を読むか、外に出て暇つぶしをするだけ。そんな毎日を送っているうちに、四年生も終わろうとしている。現役の後継くらいにも書こうと思っていたけど、引退してからでも思い出などいくらでも書けるので今はやめておく。逆を言えば今回が最後の意気込みを述べられる場なので、ガツンと言っておこう。

西医体金メダル以外はいらねえ!!

以上。

## 二〇〇一年西医体 予遠賀

〜初めてのAクルーの夏に〜

四年 吉武 記一

ぼくは今までの三年間、雑感で試合や練習の事を書いた事はなかった。『試合のことはコックスさんが書いてくれるからいいや』と思っていた。だからあえて他のことで感

動したことを書いていた。が、今シーズンに違った。これほどまでに強烈に記憶に残っていることは他に見当たらない。二〇〇一年西医体の夏……

・一次、二次予選；8/4（土）

今シーズンの試合結果からすると『予選からかなり厳しいレースになるんじゃないか？』と皆が思っていただろう。しかし、ふたを開けて見るとビックリ！！予想外にすんなりと勝ち上がる。特に驚いたのは岡山大に大差をつけてゴールしたことだ。おれたちは速かったのか？他の大学が遅かったのか？どちらなのかはよくわからないが、この二レースでクルーに自信が生まれたのは確かだった。

・準決勝；8/5（日）

『長崎・佐賀・産業・宮崎・岡山・京都』

九州勢がズラリと並び、まるで九山のよう。九山三位という結果からすると難しいはずだったが、なぜか負ける気はしなかった。

く宮崎医大の宴会大臣；臼杵さん（試合では麦わら帽子十日よけタオル、芸では金の全身タイツでおなじみ）に、『同じ九州勢として蓋世にはぜひ決勝に行ってほしいな』といつも口調で励まされる。（お前たちではなく（蓋世）という艇の名前がとっさに出てきた事と、（自分たちの代

表はだめっぽいからおまえたちに託す）みたいな言いかたをされたことにびっくりするが、スタートは横一直線。左となりの宮崎が食らいついている！しかもスタン艇！！『まじかよー？ふざけるな！！』と怒りの足蹴りローイング。

五〇〇メートル；長崎・佐賀・京都が並び、他の三校は一く二艇身差。一回のミスローイングで逆転される。

七〇〇メートル；『ん？何かおかしいぞ』それは目の前で整調を漕いでる近藤の様子だ。首が前後に大きく振れ、上体が左右に揺れている。わかりやすく（？）言うとならノーゼを起こした和佐野のような漕ぎ！！今にも倒れそうで、息も絶え絶え。たのむ、早くゴール来てくれ！！

なんとか切れ込まずにゴール。決勝進出だ！！しかし近藤には艇を上げる力もなく、和佐野に代わってもらっている。ミーティングが終りテントに戻ると、あの近藤が吐いている！！近藤のこんな姿を見たのはぼくが初めて最後かもしれない。いつも楽そうに漕いでるあの近藤も必死だったんだ。

・決勝；8/5（日）

艇着き場まで艇を運ぶ途中、宮崎医大六年の仲村さんに『九州の意地を見せて来い！！』と勇気付けられ胸が熱くなる。今大会には自身の結婚式（学生結婚）のために来られなかった森岡さんと宮崎の名物コンビとして長年体校

クルーに乗られていた方だ。

そして出艇台へ。荒波のためオールを艇につけるのに苦  
勞し、さあ、艇に乗ろうとすると、『三番！！まだ乗るな  
バカ！！』と氏家コーチにどやされる。慌てて降りるが、  
ぼくのせいで艇が傾いて沈みそうだったらしい。みんな  
笑っていて、ぼくも思わず笑いがこみあげる。決勝レース  
直前にまで皆を笑わせなくてもいいのに。なんとという芸人  
魂の持ち主！いや、ただのアホか・・・忍がりガーを押  
さえてくれ、ベンスリを渡す。二年生の時の大阪浜寺の西  
医体ではナツクルとともに決勝を経験した仲間だ。

さあ蹴り出そうとすると、その先に何やら気味悪いも  
のがプカプカ浮いてこつちに流れてきている。『なんだろ  
く？』『うわっ！！猫の死体だ！！』お腹がプクっつとふ  
くれていて、いかにも水死したって感じた。『おれらの行  
く末を暗示しているのか？』

そうこうして何とか蹴り出す。岸からは現役部員、六年  
生、OBの先生方、コーチ、部員の家族、そして九州の多  
大学の部員たちが割れんばかりの声援で見送ってくれてい  
る。ちよつと沖に出た時、宮崎先生が『よしたけー！！け  
れー！！』と叫んでおられるのを聞く。ふいに涙が込み上  
げてきた。『こんなに多くの人に励まされ、支えられ、見

守られていたんだ・・・』

シーズン中にAクルーで週末合宿を続けていると、妙な  
孤独感に襲われることがある。同じクルーのほかの四人と  
いつも一緒なのに。しかし、その孤独感はこの瞬間になく  
なった。

ゲートピン、足回りを点検する。いつもぼくはどうして  
も準備に時間がかかり、『整調オツケー』、次に少し時間を  
おいて『三番オツケー』と言うと、早くしろよといわんば  
かりに『二番』、『バウ』と声があがる。

しかし今日は特にその時間が長い。涙のせいだ。すぐ後  
ろに座る、一つ下の後輩：高田に気付かれないように涙で  
濡れたサングラスをふき、鼻をかむ。でもまだだめだ。今  
しゃべると涙声になり、ばれてしまう。少し時間をおき、  
涙が乾くのを待つ。そしてやっと『三番オツケー』なんと  
か気付かれずにすんだ（とぼくは思っている）。

そしてウォームアップをしながらスタート地点に向か  
う。今までしてきた練習が頭の中を駆けめぐる。

・冬に、引退後のダイエツトのためエルゴを引くという諸  
藤さんとエルゴ一万メートルをひいて汗だくになったこと。  
・梅雨の大雨の中、一寸先も見えない状況でライトパドル  
を続けさせられたこと。

その時、近藤はなぜかうれしそうだったこと。高田はT

シャツ一枚で乳首もスケスケなのに『いや、寒くないつすよ』と厚い腹を踊らせながら自身満々だったこと。

すすむさんはコックスの田浦さんに尻をかまし、何やら言い争っていたこと。

・夏に、汗くさいラグビー部の連中と競い合いながら筋トレをしたこと。

・夏合宿中、腰痛で何度も練習を止め、痛み止め注射を打ちに行ったこと。

なんでもないことが止めど無く思い出される。

ステッキボードにつけたのは一番あと。少し嫌な気がしたが、(焦るこじきは、もらいが少ない) という言葉を思い出し、気持ちを落ち着かせる。

『スタート二分钟前』という声上がる。波のコンディションが悪い時は直後に『よいい、GO!!』となるはずが、なぜか今回はきちんと二分とる。それを知ってか知らずか、整調の近藤はなかなか(スタート用意)の姿勢をとらない。ぼくも真似をして休んでおくがなんだか不安ですぐにスタートの姿勢をとる。順に六艇の名前が呼ばれる。よいよだ。

『よいい、GO!!』

レースで記憶に残っているのはゴールの五〇メートル手

前から聞こえてきた歓声だけ。とにかく無我夢中に漕いでいた。そして、この年のボートの夏は終わった。

ふと見ると熊本大学医学部ボート部の四年生二人が試合観戦に来ている。あれは決勝レースが終わった後のことだった。

豊田が先に見つけて話をしており、彼らはぼくに話し掛けてきた。

『おー、おまえら、来とったんかー』

『おまえも相変わらずやのー』

といった感じで会話が始まった。

彼らはぼくの同級生で、九山や三校戦では芸を競い合ったライバルたち。ぼくが二年の時にあの事件が起こって以来、艇を並べてレースをしていないので、試合で戦った記憶よりもむしろ一緒に遊んだという思い出のほうが大きい気がする。

裁判は今も続いているということで、いつ活動が再開できるか見通しは立っていないらしい。もちろん新入生の勧誘はしておらず、現在の部員は彼らの一つ下の学年までで、現役部員は二学年分という事になる。江津湖の水位も次第に下がってきており、練習をするにしても以前のようにはいかないようだ。もともと一〇〇〇mのコースがぎりぎり

取れるくらいにの広さで、ゴールした瞬間に『艇止めー!』をしなければ岸につつこんでしまうくらいだったのに。でも、あそこはほんとにキレイで、休日には家族連れが散歩を楽しんだり、講義をサボったボート部員が昼寝をしに行くようなところだ。

と、ここまで話していると、『やはりもう無理なのか……』と思っていたが、そうではなかった。次の瞬間、ぼくは耳を疑った。

『俺らの一つ下の後輩がさー、全学のボート部で現役部員として頑張つとるんよ』

さらに言葉は続き、

『俺たちが卒業するまでにはなんとかレースに復帰したいと思ってる。その時はへなちよこでもいいから、『龍神』(注：龍神とは熊本大学の一番艇の名前)を並べるつもりだよー!』

『まじ!?!?ほんとにかよー!?!?』

『だから俺たちのこと忘れるなよー!』と。

彼らはほんとに熱いやつらだ。まじでカッコよかった。実際、卒業までの復帰は難しいだろう。それは彼ら自身がよくわかっているのかもしれない。それでもあきらめずに挑戦し続ける彼らはなんてやつらなんだ!!

試合後の夜、北九州で働いておられるという四人の先生方(岡田・末永・小林・金色先生)がボート部歓迎パーティーを開いてくださった。岡田先生が開業されている病院の1階にある、洒落たイタリアンレストラン&バーでほんとにおいしい料理ばかり。

自己紹介も終わり、当時の話をいろいろお聞きしていると、なんだか妙な気分になってきた。引退されてもう何年も経っているのに、そんな気がしないのだ。まるで今のぼくたちの話をされているようだった。良くも悪くもボート部は昔から変わっていないようだ。

会も終わりに近づき、先生が最後のあいさつをされる時間になった。主催の岡田先生の言葉が印象的だった。

『今は、いろいろと難しい時代になっていますが、君たちは21世紀にちゃんと医者になってください。』

(そっかー、遊んでばかりじゃなくてしっかり勉強しろってことかな)と思っていると、そうじゃなかった。

『自分の命を大事にして、患者さんの命を救ってください。君たちが志半ばで死ぬなんて事がなく、頑張っていくことを願っています』

と、涙ながらに話された。さつき熊本大学の仲間に来ていただけに、この言葉は重たかった。

ぼくは用事で他の部員と一緒に帰れず、一人でカプセルホテルを出る。用事は夜なので昼の間は少しプラプラしようとして車を走らせていると遠賀川が見えてきた。(ちよつと行つてみーようつと♪) と思い、前日の試合会場を散歩する。

ぼくを送り出した出艇台はきれいになくなって、メーター表示板もない。ズラリと並んでいた艇もテントもなく、残っているのは照りつける太陽だけ。その静けさは決勝レースのあの歓声をひとときわ想い出させる。

(ああ、終わったんだ) と柄にもなく感傷に浸っていると、ふいに音楽が流れてきた。漕艇場のそばにある工事現場でクレーンが動く時に流れる、あの無機質で耳障りな音楽だ。今までに何度も聞き、その音楽を聞く遠賀川に来たことを実感させる。

急に現実に戻ってきた。(これから一人で長崎まで戻らないといかんのから、ドラえもののどこでもドアがほしいい)

## 雑感

三年 山道 忍

二解剖 残したままの クリスマス  
サンタの贈り物(合格) 届くのはいつの日か...

## 雑感

三年 高田 潤

去年はAクルーに乗って体重が70キロを切つてなんとか軽量級に達したので今度はコックスにでも挑戦してみたいと思う。いままでやらせてもらえなかったので...

## 雑感

二年 荒木孝太郎

怪我が多かった

膝、腰、背中

もうなおつたので

来年はがんがん練習して

軽量級を目指します

## 雑感

二年 夏田 孔史

私の目標...来年の月見こそは晋さんに勝ちたいです。



## 雑感 02'

二年 冬野 誠也

最近ゲームをやめてテレビをよく見るようになりました。ドラマに野球にバラエティは普通ですけど、最近流行りのNHKイタリア語講座、おじゃる丸、また時にはアメフトなんかまったく興味ないくせに見ちゃってます。とゆうのも、僕の家にはケーブルテレビがつかっててるからなんです。

なんと二四時間常に六〇チャンネル映るんです。そんだけあったらなにか面白いのやつてるんです。ダイエー戦はオープン戦からダイエー主催の試合はすべて

やって、しかも民放みたく延長戦の途中で終わったりしないから、ダイエー好きには、たまりません。アニメもずーっとやってていつも深夜にガンダムがやってて見えます。

二四時間音楽を流してる番組もあって最近金がないのでCDを借りに行かずにそれを録音してすませてます。でもこれだけいいこと尽くしなのに、もうひとつ、もうこの番組見れるだけで月に一二八〇円出してもいいってくらい熱い番組があります。それは・・・

WWEです。ワールドレスリングフェレクション。今やその人気はアメリカだけにとどまらず日本中をものみこんでしまいました。一見単なるやらせですが、これをやら

せだと言う人は全然この団体を解ってません。そんなの知らなくていいよと言うあなた！あなたはかわいそうな人ですね。このプロレス、知れば知るほどその奥は深く、どんなその魅力に惹かれはまってしまいました。なにが面白いのか、それはとても口、いや字では説明できません。見ないと！我らが漕艇部にも密かに地下で浸透していつてようになります。まだ見たことない人は是非一度見にきてみてください。ちなみに僕のおきにいりはストーンコールドステイブオーズチンです。近藤さんはブッカーとか言う弱いやつにはめつぼう強いが強いやつにはめつぼう弱いダンス男です。西山はゴルダストだつたつけ？全身金メッキの。あいつクソ弱いぞ。

## 雑感

一年 大場 修治

今年の心残りは公式戦で一勝もできなかったことです。来年は西医体で入賞目指してがんばります。失礼なことを時々うつかりやっています、先輩方、どうぞこれからもよろしくお願いします。

## 雑感

一年 茅田 洋之

いよいよW杯イヤーが始まり、W杯に向けて世界が盛り上がり始めているのが、はつきりと感じられるようになってきました。予選グループの組み合わせも決まり、日本は、ベルギー・ロシア・チュニジアと同じグループになり決勝トーナメント出場への期待も大きく膨らんでいます。しかし、組み合わせ表を見ると、私はかすかな寂しさを感じます。出場国の中にオランダの名前が無いのです。前回のフランス大会でベスト四にまで勝ち進んだオランダ軍団がヨーロッパ予選で敗退してしまつたのです。一体なぜあれほどまでのタレントをそろえたオランダが予選で消えるということが起こつてしまつたのでしょうか。

ヨーロッパ予選の対アイルランド戦に、その原因が隠されているような気がします。この試合に勝たなければW杯出場が絶望となつてしまうオランダは、試合終盤になると得点することをあせり、大型FWを投入してはそのFWへロングボールを当てるといつまつたくオランダらしくないつまらないサッカーをし、その結果オランダは予選で姿を消しました。オランダサッカーの特徴はやはりトータルフットボールであり、津波のように一気に押し寄せる攻撃のはずなのに、オランダの監督・選手は、土壇場で自分たちのサッカーを信じていることができなかつたのです。その精

神的弱さにヨーロッパ予選敗退の原因があつたのではないかと考えられます。

しかし、オランダはきつとこの敗戦を糧とし、美しいオランダサッカーを取り戻し、そしてさらに四年後には、優勝を狙えるチームとなつて帰つてくるでしょう。その日を心待ちにしながらW杯を楽しもうと思う今日この頃なのです。

でも今回は、優勝はアルゼンチンで決まりでしょう。

## 「雑感」

一年 西山 光郎

ボート部になぜ入つたのだろうか？最近ふとそう思うことが多い。ハッキリ言つて僕はボートとは生涯縁もゆかりもないだろう、と今まで思つていた。競技としての魅力は全くなかつた。しかし今、僕はボート部に所属している。ちまたではラグビー部とならんで恐れられているボート部にある。ということ、「初心忘れるべからず」という言葉にもあるように、僕が部に入つたいきさつを後々のために整理しておこうと思う。

一、入学手続きのために大学に来る。そのときアンケート（と名乗る勧誘）をしている冬野氏に出会いアンケート

を記入。「うちには山口県人がいるよ。」と聞いて故郷を愛す僕は吉武氏、近藤氏に逢い昼飯をご馳走になり、駅まで送ってもらおう。

二、突然携帯に近藤氏から電話が入ってくる。アンケートの紙に書いてしまっていたのだ。めんどくさい事になったと悔やむ。

三、新観パーティーで茅田氏と逢う。友達となる。そのとき同時に崎元氏に勧誘される。体調不良のためのみを断る。

四、試乗会に行く。吉武氏に誉められいい気分。また田浦氏の「ありがとう」（漕ぎ終わる際にいう例の掛け声）に更にいい気分。その後の飲みはまあ軽く済みます。

五、茅田氏と二人で寿司屋にて勧誘。茅田氏は崎元氏の「俺はいいよ。おまえはどうなの？」で落城。それ以後彼も僕の勧誘に加わることとなる。

六、部の一年生に歓迎合コンを先輩たちが設定。入ってもないのに呼ばれる。一次会は適度に。その間原口氏が同じ店の一階で落城。部員でもないのに胴上げ。その後二次会でカラオケに行く。カラオケの後半で夏田氏熱く語る。一年の中で最後に落城。

## 総括

まず初めに電話番号を書いてしまった時点で五割がた勝

負が決まり、茅田氏が入った時点で九割決まったと思う。「俺が入ったのに、お前入んないの？」という雰囲気は彼は入部後かもしだす。一旦入ると気の弱い自分はもうアウトだ。また今となつては決まり文句である。「ありがとう」に心動かされたのにはやや悲しい。また他の部の勧誘がほとんど無かつたことも大きな原因だと思う。

## 感想

とまあ成り行きで入ってしまった部ではあるが、なかなか気に入っている。ボート自体もなかなか面白くなってきたし、先輩方もいい方ばかりである。最近酒がなぜか飲めなくなるのが辛いところではあるが……。これからも精進し、いい漕ぎ手になりたいと思う。また来年の勧誘では、自分がおとされたこの手順を研究し、新一年生を誘い込みたいところである。

## 雑感

一年 原口 雅史

今年は、酔いやすい、九朝で使ったあるヒーローネタの処理が難しい、合宿中の寝言、まだ飯免、チュンリーは顔黒ではいけない、など悩みが多い。（部誌完成の頃には全て解決予定です）今はというと、授業中に寝ていてうめき

声をだして恥をかくことだ。同じ悩みを共有する人は多いはずと思う。そこで論理的に対処法を考えてみた。その一、茶、コーヒー↓金はかかるし体に悪いし効果薄。だしまるでダメダメ。そこで寝るのを前提にして、その二、うめかない様にセルフコントロール↓出来るのなら苦労しない、即却下。やはり、うめくのも前提にしなければいけないのか。その三、うつぶせて寝る。(音を逃がさないため。経験からいえばこれは実際に使える。)これもいやなら、その四、欠席する↓恥と単位を引き換えに。番外、他人の仕業に仕向ける↓上手くなるとこれはマジでいけるはず。我ながら完璧では？

このように、少し難しめの悩みも順序よく論理的思考を用いると意外に簡単ですね。お悩みの方はぜひお試しを。

## 雑感

一年 松浦 良樹

とりあえず自己紹介。

生粋の長崎人。趣味は嫌がらせ。クラシックとボサノヴァを愛する。

高校時代から仁徳に優れ、慕われる。(例)OBとして部屋に行ったときの反応

「まつうらせんぱい!」「お久しぶりです!」(女の子達)

「やあ、久しぶりだね・・・、あれっ、男たちは?」「逃げましたあ☆」

「・・・(あとで正座で説教だな)」

今年を振り返って・・・。

一、ボート部、全学管弦楽団に入部

二、九朝参戦。ある意味撃沈

三、夏合宿で日に焼ける「Iカリさん、おかわりしないでくださいよ!」

四、西医体参戦「ローパン焼けが・・・」

五、オーケストラの夏合宿で心に大きな傷を負う。その後「いーでいー」という不明な言葉を残し、しばらく隠遁生活に入る

六、夏の某日、飲み会で某部の元キャプにセクハラされる。その後、男女がまわらずセクハラされることに気づき、また傷つく

七、コックスに転身。ローヤーのキツさを忘れ始める「松浦、もう少しインターバル取ってくれ・・・」

八、子々レで好成績を残す。「俺は真つ直ぐ進んでましたよ!」

・・・さらに精進したいと思っています。

## 長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもつて当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address	医局 卒業年度
長西 靖	731-5125 長西耳鼻咽喉科医院：広島市佐伯区五日市駅前1-11-37 731-5125 広島市佐伯区五日市駅前1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839		S46
冬野 誠三	847-0844 なばたけ冬野クリニック：唐津市菜畑3660-1 847-0844 唐津市菜畑4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	fuyuno@matsuronet.co.jp	S48
松本 恵一良	593-0003 松本内科クリニック：堺市鳳西町1丁-92-2 592-0003 大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-262-5073 072-264-8828	kema@violet.plala.or.jp	S49
峰 雅宣	854-0071 健保謙早総合病院：謙早市永昌東町24-1 852-8046 長崎市柳谷町4-13	0957-22-1380 095-847-6031		第1内科 S49
朝戸 末男	891-9112 朝戸病院：鹿児島県大島郡和泊町和泊14 891-9112 鹿児島県大島郡和泊町石川平14	0997-92-1131 0997-92-2280	sasato@nisiq.net	S50
内田 隆寿	平戸青州会病院 859-4826 長崎県北松浦郡田平町野田郷3-6コーポ野田3号	0950-57-2155		第2外科 S50
桜井 一枝	720-0822 みつぷじ小児科内科医院：福山市川口町2-22-11 721-0952 広島県福山市曙町5丁目24-38	0849-53-0307 0849-54-4454	kazue.s.@fukyuyama.hiroshima.med.or.jp	小児科 S50
瀬戸 信二	852-8102 長大附属病院第3内科：長崎市坂本1-7-1 852-8052 長崎市岩屋町17-2	095-849-7288 095-857-1808	s-seto@net.nagasaki-u.ac.jp	第3内科 S50
早田 篤	852-8025 長崎市立岩町77-10 851-0121 長崎市宿町616長崎市立ひみやすらぎ荘	095-862-5622 095-838-2308		小児科 S50
田川 泰	852-8102 長崎大学医学部保健学科：長崎市坂本1-7-1 851-2128 長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-849-7900 095-887-1391	tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1外科 S50
富海 五郎	791-8022 松山記念病院：松山市美沢1-10-38 790-0903 松山市東野1丁目6-15	089-925-3211 089-977-1812		愛媛大精神科 S50
中野 文耕	853-2301 若松国民健康保険診療所：長崎県南松浦郡若松町若松郷281 853-2301 長崎県南松浦郡若松町若松郷281	0959-46-3315 0959-46-3318		第2外科 S50
丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4	095-849-7041 095-883-6395	niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S50
馬渡 一雄	850-0001 まわたり内科循環クリニック 850-0001 長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101 095-822-0101		第3内科 S50

石川 治	670-0936	石川医院：姫路市古二階町135	0792-23-3270		岡山大外科
	670-0936	姫路市古二階町12	0792-23-1307		S52
川口 昭男	850-0045	井上病院：長崎市宝町8-9	095-844-1281		第1外科
	852-8046	長崎市柳谷町14-27	095-847-5529		S52
神田 源太	851-0403	三和病院：長崎県西彼杵郡三和町布巻165-1	095-892-0591		皮膚科
	850-0003	長崎市片淵1丁目12-7	095-822-7051		S52
田中 精一	192-0904	八王子消化器病院：八王子市子安町3-18-1	0426-26-5111		女子医大消化器センター
	193-0811	八王子市上巻分方町246-1	0426-51-7640	s-tanakaka@xa2.so-net.ne.jp	S52
堤 健二	830-0047	聖マリア病院：福岡県久留米市津福本町422	0942-35-3322		脳外科
	839-0863	福岡県久留米市国文町1121-9	0942-22-3272	k-tutumi@kumjin.ne.jp	S52
吉良 満夫	852-8008	浜崎外科病院：長崎市曙町3-6	095-861-6034		第2外科
	852-8008	長崎市曙町3-6	095-861-7431		S54
出口 正巳	530-0012	白壁美容外科：大阪市北区芝田1-14-7	06-6372-2512		形成外科
	659-0012	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46	0797-38-8077		S54
井上健一郎	850-0045	井上病院：長崎市宝町6-12	095-844-1281		第2内科
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218		S55
江口 圭介	857-0134	長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191		第3内科
	857-0015	佐世保市松山町5-38	0956-22-2224	eknasm@hyper.ocn.ne.jp	S55
成松 元治	854-0071	健康保険康早総合病院：長崎県諫早市永昌東町24-1	0957-22-1380		心臓血管外科
	852-8054	長崎市エミネント葉山町15-7	095-857-6855	cardio@orange.ocn.ne.jp	S55
水谷 明正	851-0301	長崎記念病院：長崎市梁堀町1-11-54	095-871-1515		第2外科
	850-0963	長崎市ダイヤラッド1-36-19	095-878-3807		S55
小倉 猛	866-0826	熊本労災病院：熊本県八代市竹原町1670	0965-33-4151		形成外科
	866-8533	熊本市画図町重富744-13	096-379-7592	togura@lime.plala.or.jp	S56
谷川 宗生	852-8061	長崎北病院：長崎市滑石5-4-61	095-857-0001		第3内科
	851-2127	西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-883-4030		S56
難波 裕幸	852-8523	長崎大学医学部原研細胞：長崎市坂本1-12-4	095-849-7115	namba@net.nagasaki-u.ac.jp	原研細胞
	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-883-7541		S56
前原 洋二	835-0024	森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄590	0944-63-2040		
	830-0047	福岡県久留米市津福本町786-6グラウンピアラジョン津福1001	0942-37-5038		S56

村山 晋	510-0243	島原クリニク：鈴鹿市白子4-16-6	0593-86-6161		三重大第1内科
	510-0235	鈴鹿市南江島町23-5ヲオラスト白子11504	0593-68-3841	s-murayama@h8.dion.ne.jp	S56
岡野 邦彦	852-8102	長大附属病院整形外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7384		整形外科
	852-8117	長崎市平野町14-13セントヒルズ平野102号	095-849-7321		S63
朝長 道生	843-0301		0954-43-1120		第2内科
	843-0301		0954-42-3326		S63
中島 寅彦	812-8582	九州大学医学部耳鼻咽喉科：福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5668		九大耳鼻科
	814-0113	福岡市城南区田島5-10-10	092-871-5238	mietora@atglobal.com.net	S63
天野 秀明	852-8102	長大附属病院熱研内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7384		熱研内科
	852-8027	長崎市城山台2丁目30-3	095-864-1101		H1
金色 正広	805-0061	北九州市立八幡病院麻酔科：北九州市八幡東区西本町4-18-1	093-663-3055	kanairo@mars.dti.ne.jp	麻酔科
	805-0061	北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705			H1
吉川 公正	804-0012	健和会中原病院：北九州市戸畑区中原東3丁目10-17	093-881-8181		脳外科
	808-0016	北九州市若松区原町9-6	093-751-6528	yusyusho@05.alphatec.or.jp	H1
旭 隆宏	874-0011	国立別府病院：大分県別府市大字内かまど1473	0977-67-1111		九大小児科
	874-0011	大分県別府市大字内かまど1473国立別府病院官舎R-6-5	0977-27-9555	asahit@beppu.hosp.co.jp	H2
白藤 智之	852-8125	聖ラジスコ病院：長崎市小峰町9-20	095-846-1888		第1外科
	852-8151	長崎市泉1丁目3-4	095-848-0191	shirafugi@sfn.or.jp	H2
寺尾 保信	113-0021	東京都立駒込病院：文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		慈恵大形成外科
	108-0074	東京都港区高輪3丁目16-8-206	03-3443-5034		H2
中村 晋	813-0042	中村内科医院：福岡市東区舞松原1丁目6-18	092-681-7363		
	813-0031	福岡市東区八田2-1-52ヴェルデ香椎南413	092-662-4414	RYO-n@nn.iij4u.or.jp	H2
山本 太郎	606-8501	京都大学大学院医学研究科：京都市左京区吉田近衛町	075-753-4355		熱研社会環境
	606-8331	京都市左京区黒谷30-1クワール岡崎201号	075-762-5586	taro-y@pbh.med.kyoto-u.ac.jp	H2
生田 安司	852-8102	長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7304		第一外科
	852-8022	長崎市富士見町10-25-302	095-861-9733	yikutata@net.nagasaki-u.ac.jp	H3
市川 辰樹	852-8501	長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7200		第1内科
	852-8125	長崎市小峰町14-3-601	095-843-1470		H3
鈴木 康弘			301-496-9238		熊大第2内科
					H3



田中 邦彦	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7041		第2外科
	852-8107	長崎市浜口町10-5アゾアルトマンション703	095-843-5058		H 3
山本 修	850-0015	山本外科医院：長崎市桜馬場1-2-8ヤササニビル1F	095-823-8585		第2外科
	850-0015	長崎市桜馬場1-2-8ヤササニビル203	095-824-4600		H 3
劉 中誠		田川市立病院	0947-44-2100		第1外科
	825-0004	福岡県田川市桐ヶ丘6-2組医師住宅2号	0947-45-4956		H 3
黒木 保	852-8102	フイラデルフィア留学	095-849-7316		第2外科
	852-8027	長崎市城山台1-42-11-403	095-862-8052	koromoto@tt5.so-net.ac.jp	H 4
佐藤 俊一	380-0922	長野赤十字病院：長野市若里5丁目22-1	026-226-4131		信州大第3内科
	380-0922	長野市栗田202-1カサフイナA1-103	026-228-3552	ssato@nagano-med.jrc.or.jp	H 4
趙 成三	852-8102	長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		麻酔科
	852-8065	長崎市横尾2-13-17シテイパルス横尾303	095-856-3793	chos@net.nagasaki-u.ac.jp	H 4
津田 純	154-0014	津田眼科：東京都世田谷区新町3-20-1-206	03-5450-7237		H 4
	154-0016	世田谷区弦巻1-44-3レジオン弦巻205号	03-3439-7759		H 4
中野 基		ハーバード大学医学部ボストン小児病院	1-617-355-5009		形成外科
		33 Pond Avenue, #201 Brookline, MA.02445-7136, U.S.A.	1-617-264-7999	mnakano@rascal.med.harvard.edu	H 4
福井 雅士	852-8102	長崎大学付属病院：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7328		形成外科
	852-8015	長崎市春木町302-43	095-861-3693		H 4
南 恵樹	852-8102	長崎大学附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7200		第2外科
	850-0951	長崎市国分町10-6	095-824-5123		H 4
竹下 浩明	859-3615	国立療養所川棚：長崎県東彼杵郡下組郷2005-1	0956-82-3121		第1外科
	859-3615	長崎県東彼杵郡下組郷完者7号棟201	0956-82-5921	hiro-t@fsinet.or.jp	H 5
近藤 新二		アメリカ留学中			形成外科
	800-0257	北九州市小倉南区湯川5-7-7	093-921-4416		H 6
斎藤 将隆	852-8102	長大附属病院集中治療部：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		麻酔科
	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷60-1-401	095-855-1496	parsifal@net.nagasaki-u.ac.jp	H 6
阪上 学	565-0871	大阪大学微生物化学研究所：吹田市山田丘3-1	06-6879-8294		大阪大麻酔科
	662-0976	兵庫県西宮市宮西町14-13フアミール風川508	0798-37-1475	sakaue@ff.ij4u.or.jp	H 6
松尾 敏明	653-0041	神戸市共同病院：神戸市長田区久保町2-4-7	078-382-5111		神戸大国際予防医学
	651-2103	神戸市西区学園西町7-1アクテイ学園西町754号棟506号室	078-794-0910	Toshiaki.Matsuo@ma5.seikyou.ne.jp	H 6

岩井 敏郎	812-0054	九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1	092-641-1151		九大心臓血管外科
	810-0054	福岡市中央区今川2丁目7-52-303	092-737-3773	tiwai@heart.med.kyushu-u.ac.jp	H 7
宗 英吾	852-8003	共立病院：長崎市旭町26-18	095-862-0001		耳鼻科
	852-8061	長崎市浦石1丁目4-55メゾンボソレイユ601	095-857-5273		H 7
中楠 了太	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7043		第1薬理
	852-8123	長崎市三原町42-2三原グリーンハイツ202	095-846-6999	nakaoko@net.nagasaki-u.ac.jp	H 7
藤本 武士	825-8567	田川市立病院：福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100		第1内科
	825-0005	福岡県田川市大字糠1702		t.fujimoto@hospital.fukuoka.tagawa.jp	H 7
安田恵多良		大阪大学医学部脳神経外科	06-6879-3652		大阪大脳外科
	560-0045	大阪府豊中市刀根山6-2-5	06-6856-1008	kyasuda-nsu@umin.ac.jp	H 7
古賀 洋安	839-0863	久留米大学医療センター小児科	0942-22-6111		久留米大小児科
	830-0038	福岡県久留米市西町1024-305	0942-37-3806	coffee35@mx.tiki.ne.jp	H 8
城田 利彦	812-0054	九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1	092-642-5557		九大心臓血管外科
	810-0062	福岡市中央区荒戸2-2-5-803	092-751-7765	tshirota@medeng.med.kyushu-u.ac.jp	H 8
関 徹		東北大学医学部付属病院精神科	022-717-7262		東北大精神科
	981-0933	仙台市青葉区柏木1-9-1-304	022-274-6311	QWP07174@niftyserve.co.jp	H 8
武野 正義		国立循環器病センター心臓内科	06-6833-5012		第3内科
	562-0026	大阪府箕面市外院2丁目16-11-201号	0727-26-8970		H 8
福田 顕三	852-8102	長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	852-8135	長崎市千歳町5-26-1304	095-842-1158		H 8
山里 昌司	825-8567	田川市立病院：福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100		第3内科
	825-0005	福岡県田川市大字糠3847-1	0947-45-3025		H 8
岡 真一郎	857-0026	千住病院：佐世保市宮地町5-5	0956-24-1010		第2内科
	857-0041	佐世保市木場田町8-21-402号	0956-25-8684		H 9
岡田和一郎	430-0908	浜松赤十字病院：浜松市高林町1-5-30	053-472-1151		慶応大耳鼻科
	430-0906	浜松市住吉1丁目36-27 202号	090-1625-8528		H 9
牟田口 滋	849-0906	佐賀整肢学園：佐賀市金立2215-27	0952-98-2211		九大整形外科
	849-0906	佐賀市金立2215-27職員寮301号	090-1970-7130		H 9
大石 正雄	790-0024				形成外科
	790-0023			moishi999@hotmail.com	H 10

古賀 聖士	851-0301 長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54 850-0918 長崎市大浦町9-36-207	095-871-1515 095-811-3763		第2内科 H10
崎元 暢	173-0032 日大附属病院：板橋区大谷口上町30-1 173-0036 板橋区向原1-21-22スカイフレッツボアヴェール302	03-3972-8111 03-3554-9103	torusaki@med.nihon-u.ac.jp	日大眼科 H10
山崎 励至	852-8102 長大附属病院原研内科：長崎市坂本1丁目7-1 851-2127 西彼杵部長与町高田郷151-61	095-849-7380		原研内科 H10
高橋 優二	852-8102 長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8131 長崎市文教町12-3ライオンズマンション609	095-849-7475 095-848-2841		耳鼻科 H11
谷川 治	815-0032 九州中央病院：福岡市南区塩原3-23-1 815-0042 福岡市南区若久1-32-16-601	092-541-4936		九大第2外科 H11
牧野 淳	成田赤十字病院 286-0041 千葉県成田市飯田町22-9エスカージ201	0476-22-2311 0476-23-1305		千葉大第2内科 H11
宮崎 浩充	東北大学大学院 981-3133 宮城県仙台市泉中央3丁目7-8ガーデンプラザ泉中央401	022-773-4866	hiro-m@yg7.so-net.ne.jp	耳鼻科 H11
山本 経之	816-0864 福岡徳州会病院：福岡県春日市須玖北4-5 816-0873 福岡県春日市日出町4-40-305	092-573-6622 092-572-9604		形成外科 H11
吉野 俊平	820-0018 福岡飯塚病院：飯塚市芳雄町3-83 820-0005 飯塚市新飯塚6-6-607	0948-22-3800 0948-23-8590	syoshi26@aol.com	飯塚病院 H11
澁谷 正樹	790-0024 愛媛県立中央病院内科：松山市春日町83 790-0036 愛媛県松山市小栗4-3-16クリンハイツ立412	089-947-1111 089-986-4182	bc8-sdy@asahi-net.or.jp	山口大第2内科 H12
土井 晋平				H12
福田 義文	650-0017 神戸大学医学部付属病院精神神経科：神戸市中央区楠町7-5-2 651-2274 神戸市西区竹の台4丁目21-5	078-382-5111 090-4578-6523		H12
程野 茂樹	愛媛大学眼科 799-3111 愛媛県伊予市下吾川676-1	0899-83-3504	hodono@mbc.sphere.ne.jp	愛媛大眼科 H12
松永 祥志	852-8102 長大附属病院脳外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8137 長崎市若葉町3-3シャトー若葉503	095-849-7465		脳外科 H12
及川 将弘	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1 850-0036 長崎市五島町10-4林田ビル403	095-849-7304 095-832-4123		第1外科 H13

森 創	852-8102	長大付属病院小児科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7462	小児科
	852-8114	長崎市橋口町14-17アムロハイツ301	095-844-3801	H13
			neomoriso@yahoo.co.jp	
ウイケアンロン	790-0005	愛媛県松山市花園街4-6アトノンパーク21 601号室	03-3353-8111	
		愛媛県立中央病院 心臓血管外科	090-9408-8805	H13
松本 周平		佐世保市総合病院		麻酔科
	857-0041	佐世保市木場田町8-13-402		H13
諸藤 陽一	852-8102	長大付属病院脳外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7465	脳外科
	852-8112	長崎市本尾町16-13プロミネント本尾103	095-849-6149	H13
蓬萊 彰士	852-8102	長大付属病院精神神経科：長崎市坂本1丁目7-1		精神神経科
	852-8116	平和町8-23パーパークサイド平野町202	090-1369-5720	H14
青山 英和	755-0067	山口大付属病院第2内科：山口県宇部市南小串1-1-1		山口大第2内科
	755-0067	山口県宇部市小串539-2-101		H14
西條 知見	852-8102	長大付属病院第2内科：長崎市坂本1丁目7-1		第2内科
	852-8116	平和町20-16エンジェルコート白川201	095-848-9751	H14
高木 理博	852-8102	長大付属病院熱研内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7384	熱研内科
	852-8113	上野町7-17ATビル103	095-842-2944	H14
田辺 孝大	852-8102	長大付属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370	麻酔科
	852-8123	三原町1466ザイラ・デル・ソノ平川101	095-848-4449	H14
渡辺 庸平	984-0075	仙台市立病院小児科：宮城県仙台市若林区清水小路3-1		小児科
	984-0075	宮城県仙台市若林区清水小路3-1仙台市立病院小児科		H14

## 長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号		役職 備考
	自宅		自宅電話番号		
村上 文也	850-0036	長崎市五島町3-3-202	095-826-7757		会長
	852-8117	長崎市平野町1-25	095-847-5132		
須山 弘文	850-0803	玉木女子短大：長崎市風頭1-33	095-822-8694		顧問 前法医学教授
	852-8065	長崎市横尾2丁目4-5	095-856-1321		
高久 功	850-0963	長崎市ダイヤランド1丁目44-15	095-879-3699		顧問 前眼科学教授
尾崎 正若	861-1102	熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761		顧問 前第2薬理教授
山口 光次	852-8145	長崎市昭和町2丁目5-14	095-844-5272		顧問 県求一ト協会展長
	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979		
吉田 恒雄	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979		顧問
井上健一郎	850-0045	井上病院：長崎市宝町8-9	095-844-1281		事務局担当
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218		
中橋 了太	852-8102	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1丁目12-4	095-849-7043		世話人
	857-1151	長崎市三原町12-2-202	095-846-6999		
岡 真一郎	857-0026	千住病院：佐世保市宮地町5-5	0956-24-1010		世話人
	857-0041	佐世保市木場田町8-21-402	0956-25-8684		

# 長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考 卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業 S19
岡本 英雄	855-0831 島原市湊道町2丁目7024	0957-62-2452	開業 S7
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3043	開業 S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業 日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑が丘町1-4	095-846-2052	開業 S19
高木聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業 S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業 S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町17-1	095-861-3576	開業 S30

## 長崎大学医学部漕艇部役員名簿

氏名	連絡先住所	連絡先電話番号 第2連絡番号	役職
丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7041	顧問
氏家 祐二	851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉牟田郷1163-37長崎ニュータウン30-8	095-883-8875	コーチ
近藤 学	852-8014 長崎市竹の久保町1-5	095-846-0290 090-8916-2872	主将
高田 潤			副主将
夏田 孔史			副主将
末下 雅也			主務
山道 忍			主務

# 長崎大学医学漕艇部

## 公式ホームページ

since 2000

<http://www5.ocn.ne.jp/~ring0/boat/index.htm>

～ Yahoo で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート競技と部の紹介、部のイベント、試合の記録などを写真と一緒に載せています。OB専用掲示板もありますので卒業生同士の連絡にもご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>



## 編集後記

この度、ようやく漕魂二四号を発刊するに至りました。この漕魂が自分と同じ年に生まれたものだというのを、完成する間近に気づいた次第です。

まずは、今回の部誌に関しまして、発刊するまでに大変な時間を費やしてしまいましたことをお詫びいたします。表面上は昨今のものと変わりませんが、制作にあたりましては、今まで1薬理教室のパソコンを使わせていただいたものを、部員のパソコンを使用しました。つまり、マッキントッシュからウィンドウズへとOSを変えた事で、新たにPagemakerで調整する必要がありました。当然ながら前回までのデータは使用できなくなり、フォント等をそろえる手間がかかってしまいました。文章編集担当の猪狩君には多大な負担がかかってしまい、申し訳ない気持ちとともに、大変感謝しています。しかし今回の作業により、学生間に浸透しているウィンドウズでのデータが出来上がり、より部員には扱いやすくなったものと思います。

インターネット上の公式ホームページも年を重ねる毎に内容が充実してきています。今は引退した猪狩君が管理者ですが、これはぜひとも現役部員に管理してもらいたいも

のです。試合結果や特集など、ホームページを頻繁に更新することができるのは、現役部員が管理してこそのものでしょう。

そして、そうした積み重ねによって現役部員とOBの先方との交流の手段が広げられていけば、それが部の発展にもつながるものと思います。

今回の部誌発刊にあたりまして、ご協力いただきました方々に感謝を申し上げます。

そしてご好意を持って協賛いただきました会社の御援助に対しまして、改めてお礼を申し上げます。

制作責任者 田浦 康明

# 祝 「漕魂」 24号発行

<p><b>エーザイ株式会社</b></p> <p>長崎市万才町6-38 明治生命ビル4F 〒850-0033 ☎ 095-827-1131</p>	<p><b>大日本製薬株式会社</b></p> <p>長崎市万才町8-22 長崎朝日ビル6F 〒850-0033 ☎ 095-821-8412</p>
<p><b>大塚製薬株式会社</b></p> <p>長崎市油木町11-5 〒852-8035 ☎ 095-846-7302</p>	<p><b>田辺製薬株式会社</b></p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル3F 〒850-0051 ☎ 095-824-3843</p>
<p><b>小野薬品工業株式会社</b></p> <p>長崎市出島町1-14 出島朝日生命青木ビル8F 〒850-0862 ☎ 095-822-8271</p>	<p><b>中外製薬株式会社</b></p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル7F 〒850-0051 ☎ 095-825-4772</p>
<p><b>科研製薬株式会社</b></p> <p>長崎市城山町18-9 城山ビル3F 〒852-8021 ☎ 095-861-3911</p>	<p><b>富山化学工業株式会社</b></p> <p>長崎市五島町5-48 長崎船用品ビル3F 〒850-0036 ☎ 095-821-7269</p>
<p><b>カネボウ薬品株式会社</b></p> <p>東京都港区海岸3-20-20 〒108-8080 ☎ 03-5446-3300</p>	<p><b>日本ロシユ株式会社</b></p> <p>長崎市興善町6-5 長崎興善町東邦生命ビル9F 〒850-0032 ☎ 095-822-2422</p>
<p><b>杏林製薬株式会社</b></p> <p>長崎市賑町7-12 熊銀不動産ビル7F 〒850-0876 ☎ 095-820-3441</p>	<p><b>ノバルティス ファーマ株式会社</b></p> <p>長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル4F 〒850-0055 ☎ 095-827-3600</p>
<p><b>協和発酵工業株式会社</b></p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル6F 〒850-0051 ☎ 095-822-8514</p>	<p><b>バイエル薬品株式会社</b></p> <p>長崎市宝町5-5 平田ビル6F 〒850-0045 ☎ 095-846-5009</p>
<p><b>大鵬薬品工業株式会社</b></p> <p>長崎市油木町11-5 〒852-8035 ☎ 095-847-2243</p>	<p><b>萬有製薬株式会社</b></p> <p>長崎市興善町4-5 日本団体生命長崎ビル6F 〒850-0032 ☎ 095-823-7141</p>
<p><b>武田薬品工業株式会社</b></p> <p>長崎市目覚町5-2 〒852-8105 ☎ 095-845-8484</p>	<p><b>ファイザー製薬株式会社</b></p> <p>長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル8F 〒850-0055 ☎ 095-827-2441</p>
<p><b>第一製薬株式会社</b></p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル2F 〒850-0051 ☎ 095-826-8050</p>	<p><b>三菱ウェルファーマ株式会社</b></p> <p>長崎市興善町2-24 長崎第一生命ビル2F 〒850-0032 ☎ 095-832-2001</p>

# 祝 「漕魂」 24号発行

## 住友製薬株式会社

長崎市興善町4-5 アクサニチダン長崎ビル5F  
 〒850-0032 ☎ 095-824-6715

## 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

長崎市興善町2-24 長崎第一生命ビル2F  
 〒850-0032 ☎ 095-822-4481

## 日本化薬株式会社

長崎市千歳町21-1 久部ビル2F  
 〒852-8135 ☎ 095-849-2777

## 日本ケミファ株式会社

福岡市博多区住吉3-1-80 オヌキ新博多ビル2F  
 〒812-0018 ☎ 092-272-1031

## 山之内製薬株式会社

長崎市興善町6-5 東邦生命ビル4F  
 〒850-0032 ☎ 095-827-2893

## ゼリア新薬工業株式会社

長崎市城山町18-9 第二城山ビル1F  
 〒850-8021 ☎ 095-861-3033

## 大正製薬株式会社

福岡市博多区東比恵2-8-28  
 〒812-8703 ☎ 092-451-7831

## 日本製薬株式会社

東京都千代田区東神田1-9-8  
 〒101-0031 ☎ 03-3864-8411

## 塩野義製薬株式会社

長崎市万才町6-34 あおぼ時事長崎ビル4F  
 〒850-0033 ☎ 095-826-2101

## 旭化成工業株式会社

長崎市千歳町6-33 千秀ビル  
 〒852-8135 ☎ 095-848-7601

## 藤沢薬品工業株式会社

長崎市勝山町37 栄泉長崎ビル5F  
 〒850-0028 ☎ 095-824-2202

## アストラゼネカ株式会社

福岡市博多区博多駅前3-25-21博多駅前ビジネスセンター4F  
 〒812-0011 ☎ 092-436-2400

他、多数のメーカー様の協賛  
 有難うございました

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 \_\_\_\_\_ 年卒 \_\_\_\_\_

現住所 \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという時期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。